

令和7年度

# 大阪しあわせネットワーク

## 市区町村域体制整備助成事業

### 報告書



# 大阪しあわせネットワークについて

## オール大阪の社会福祉法人による 地域貢献事業

少子高齢化や人口減少、社会経済情勢の変化により、地域の助け合いや家族の支え合いが弱まり、孤独・孤立、子どもの貧困、生活困窮などの課題が深刻化しています。大阪府内のすべての社会福祉法人は、「社会福祉法人の使命」として、それぞれの強みを活かした地域における公益的な取り組みを実践しています。地域共生社会の実現をめざし、市区町村社会福祉協議会や地域貢献委員会などと連携し、「オール大阪」でひとりひとりのしあわせを支えています。



### 生活困窮者レスキュー事業

### 社会福祉法人の強みを活かしたワンストップ生活相談

失業、介護、障がい、虐待やDVなど、さまざまな「生活 SOS」に対応する総合生活相談事業です。CSW(コミュニティソーシャルワーカー)、スマイルサポーターなどの相談員が各所と連携し、各種制度やサービスにつないで生活の安定をはかります。また必要に応じて食材提供などの緊急支援も実施。暮らしを支える頼みの綱です。

### 地域貢献事業

社会福祉法人(福祉施設)の機能や強みを活かした、地域のニーズに応えるさまざまな支援事業を開発・展開します。(下記はその一例)

#### スマイルサポーター

保育園・認定こども園における地域貢献事業  
保育園・認定こども園のスマイルサポーターが、地域の相談に応じ、必要な支援につなぎます。



#### 就労支援・中間的就労

障がいがある方・仕事の経験が少ない方など、「働きたい」という気持ちを持つすべての人の一歩を応援します。



#### フードバンク・家計支援

支援を必要とする方へ食料等の提供や家計支援・アドバイスをします。



#### 社会参加・生きがい支援

ボランティア活動等を通じて社会参加や生きがいづくりを支援します。



#### 子ども食堂・学習支援

子ども食堂や子どもたちの学びの機会など安心できる場を提供します。



#### 地域の居場所づくり

同じ悩みを分かち合える居場所を提供します。



### 大阪モデル構築の推進

#### 大阪らしい包括的支援体制

社協や地域貢献委員会(施設連絡会)と連携し、地域貢献事業や生活困窮者支援、ネットワークづくりを推進します。市区町村の包括的重層的支援体制構築を推進するため、しあわせネットワークが、支援、コーディネート、調整等を行います。

### 社会貢献基金の拠出

社会福祉法人(福祉施設・事業所)が「社会貢献基金(特別部会費)」を拠出し、これらの事業の推進に活用します。

はじめに

大阪しあわせネットワークの歩みは、平成16年に老人施設部会がはじめ総合生活相談(生活困窮者レスキュー事業)にさかのぼります。生活上のSOSに応える取り組みとして、社会福祉法人(福祉施設)の職員を総合生活相談員(コミュニティソーシャルワーカー(CSW)、スマイルサポーター)として養成し、支援の体制づくりを進めてきました。

その後、社会福祉法人では、社会参加や生きがいづくりの支援、地域の居場所づくり、中間的就労、障がいのある方の就労支援、子育て支援、困窮世帯の子どもへの学習支援など、地域の実情に応じたさまざまな地域貢献活動が広がっていききました。こうした一つひとつの取り組みが地域に根を張り、支え合いの芽を育ててきました。

平成27年には、これらの実践を土台として、経営者部会を中心に事業種別を超えた社会福祉法人が連携する社会貢献事業「大阪しあわせネットワーク」が発足しました。現在では、オール大阪の社会福祉法人による協働の輪が広がり、大阪しあわせネットワークは府社協会員である1,510施設が参画する取り組みへと成長しています。

また、府社協では、市町村域で社協と社会福祉法人が連携し地域課題の解決に取り組む「地域貢献委員会(施設連絡会)」「事務局・市町村社協」の組織化を進めてきました。地域の実情をふまえ、困りごとに寄り添いながら支え合いの仕組みを育てていく場として、地域共生社会の実現に向けた大きな役割が期待されています。

大阪府内では、類する組織を含めすべての市町村で「地域貢献委員会(施設連絡会)」が設置され、各地域では社会貢献基金の「市区町村域大阪しあわせネットワーク体制整備助成事業」を活用し、地域の状況や課題に応じたさまざまな体制づくりや実践が進められています。本助成事業は、市町村域における社会福祉法人の連携体制をより強固なものとし、地域で支え合う仕組みを持続的に発展させていくことを目的とするものです。

令和7年度から令和9年度までの3年間は、次の体制へとつながる成長の期間です。市区町村で育まれている取り組みが、社会福祉法人の地域貢献実践と協働した体制(大阪モデル)として大きく花開き、地域に支え合いの輪がさらに広がっていくこと、そしてその成果が令和10年度以降のさらなる展開へとつながることを期待しています。

本冊子が、手に取っていただいたみなさまの活動のヒントとなれば幸いです。

令和8年3月 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会  
社会貢献基金 運営委員会

# Contents



## 大阪しあわせネットワークについて

|  |     |
|--|-----|
| はじめに   | 1   |
| もくじ  | 2・3 |
| <b>北摂</b>  |     |
| 豊中市社会福祉施設連絡会<br>つながりが人を元気にする地域共生の実践                                | 4   |
| 池田市社会福祉施設連絡会<br>「ひとりじゃないよ」を届ける池田                                   | 5   |
| 吹田市社会福祉協議会施設連絡会<br>地域とともに育てる安心の輪ー施設連絡会の挑戦ー                         | 6   |
| 高槻市民間社会福祉施設連絡会<br>地域でつながる安心の居場所と相談の輪                               | 7   |
| 箕面市社会福祉法人連絡会<br>つながり・ささえあい・笑顔あふれる毎日を!                              | 8   |
| 摂津市社会福祉施設地域貢献委員会(施設連絡会)<br>つながりが地域を元気にする! 支え合いのまちづくり               | 9   |
| 島本町社会福祉施設地域貢献連絡会<br>顔の見える関係が紡ぐ未来へ向かうまちづくり                          | 10  |
| 能勢町社会福祉施設地域貢献委員会<br>ともに生きる豊かな地域社会                                  | 11  |
| <b>河北</b>  |     |
| もりぐち地域貢献委員会<br>つながりの中で進める認知症啓発と防災活動                                | 12  |
| 枚方市社会福祉施設地域貢献連絡会<br>ひらく・つながる・支えるーワンストップで寄り添う地域支援のかたちー              | 13  |
| 寝屋川市社会福祉協議会地域貢献委員会<br>善意がめぐる、やさしさのかたちー46法人で取り組むフードドライブの広がりー        | 14  |
| 大東市地域貢献委員会<br>学びとつながりを通じて支え合う地域福祉の取り組み                             | 15  |
| 門真市地域福祉連絡会<br>ひろがる学び、つながる門真ーともに支え合う地域づくりの歩みー                       | 16  |
| 四條畷市地域貢献委員会<br>世代と分野を超えてつながる地域力向上をめざした防災運動会                        | 17  |
| 交野市社会福祉施設地域貢献連絡会<br>地域に届く「ほっとかれへん」想いーCSWの実践と地域の福祉を学ぶ取り組みー          | 18  |
| <b>河南</b>  |     |
| 東大阪市社会福祉施設団体連絡会<br>福祉の魅力をぎゅっと集めて みんなで発信する東大阪                       | 19  |
| 八尾市社会福祉協議会社会福祉施設連絡会<br>「行政×社協×社会福祉法人 三位一体の『八尾モデル』」                 | 20  |
| 河内長野市社会福祉施設連絡会<br>生活をほっとかへん、まちをほっとかへんー福祉施設が関わる地域福祉の現在地ー            | 21  |
| 松原市社会福祉施設地域貢献委員会<br>これまでの歩みを力に松原のまちに育つ支え合いのかたち                     | 22  |
| 柏原市民間社会福祉施設連絡会(柏原市地域貢献委員会)<br>～困ったときはお互いさま! フードパントリー発・みんなで作る地域の笑顔～ | 23  |
| 羽曳野市福祉施設連絡会<br>つながり、結びあう。ともに創る地域のかたち                               | 24  |

|   |    |
|---|----|
| <b>藤井寺市社会福祉施設連絡会</b><br>地域とつながり続ける支援をめざしてー包括的支援体制の構築に向けた研修会とはっぴいレンドの実践ー     | 25 |
| <b>大阪狭山市社会福祉施設連絡会</b><br>地域の「あったらいいな!」福祉施設と社協の協働                            | 26 |
| <b>太子町社会福祉施設連絡会</b><br>地域で出会い、地域で支えるー「太福しごと市」と笑顔広がる交流の取り組みー                 | 27 |
| <b>岸和田市地域貢献委員会</b><br>つながる力を地域の力へー社会福祉法人と社協の協働による新たな地域貢献ー                   | 28 |
| <b>泉大津市社会福祉協議会地域貢献委員会</b><br>あつまる善意、ひろがる支え合いー施設と地域がつくる、やさしい福祉の循環ー           | 29 |
| <b>泉佐野市民間社会福祉施設協議会(泉佐野市地域福祉推進委員会)</b><br>社会福祉施設と社協が担う地域福祉ー両輪で進める包括的支援体制の構築ー | 30 |
| <b>高石市福祉施設連絡会</b><br>～誰もひとりぼっちにしないまちづくりをめざして～                               | 31 |
| <b>泉南市社協地域貢献委員会</b><br>ともに考え、ともに動く「オール泉南」の挑戦ー産・官・学・民で進める地域共生のかたちー           | 32 |
| <b>阪南市社会福祉施設連絡会</b><br>「ここで働きたい」と言われる法人をみんなで考える                             | 33 |
| <b>忠岡町社会福祉協議会地域貢献委員会</b><br>Snoezelenー誰もが安らげる場所ー                            | 34 |
| <b>田尻町社会福祉協議会</b><br>みんなで育てる、地域のやさしさーフェスタを通じた福祉の担い手づくりー                     | 35 |
| <b>此花区社会福祉施設連絡会</b><br>みんなの此花区 施設ナビ   | 36 |
| <b>西区社会福祉施設連絡会</b><br>“その子の世界”を知ることから広がる支援ーVR体験で学ぶ、当事者目線の大切さと支援のつながりー       | 37 |
| <b>天王寺区社会福祉施設連絡会</b><br>人生のランウェイー利用者の望む暮らしを「あなたのケアが誰かの人生を照らす!」              | 38 |
| <b>東淀川区社会福祉施設連絡会</b><br>支えるから、ともに歩むへー登録者主体で広がるあたらしい地域コミュニティー                | 39 |
| <b>生野区社会福祉施設連絡会</b><br>音楽と防災で広がる生野区のやさしいつながりー多世代・多文化が出会う交流の場づくりー            | 40 |
| <b>阿倍野区社会福祉施設連絡会</b><br>まちと施設が出会う一歩「あべのつながりマップ」と交流の広がり                      | 41 |
| <b>住之江区社会福祉施設連絡会</b><br>「わかる」から「寄りそう」へー認知症・発達障がい体験する学びの時間ー                  | 42 |
| <b>住吉区社会福祉施設連絡会</b><br>住吉まるごと体験ー防災・福祉ー SUMIYOSHI ACTION2026                 | 43 |
| <b>平野区社会福祉施設連絡会</b><br>一つの取り組みが、地域の力に「学びと協働を重ねるやさしいまち」                      | 44 |
| <b>西成区社会福祉施設連絡会</b><br>地域で福祉を支える人とのであいを西成からの魅力発信                            | 45 |
| <b>地域貢献委員会(施設連絡会)取り組み概要</b>   | 46 |
| <b>助成事業報告書をまとめて</b>   | 48 |

## つながりが人を元気にする地域共生の実践

### 取り組んだきっかけや目的

研修の実施をはじめ、障がい、保育・児童、高齢などの分野を超え、社会福祉施設相互の連携体制の構築をめざしています。

さらに、地域福祉活動への理解を深める事業を展開することで、社会福祉法人として地域への社会貢献活動の促進を図ることを目的としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

①2025大阪・関西万博関連事業「OSAKAから地域共生の未来をつくる」プロジェクトにおいて、9月15日に出演の機会をいただきました。

当日は「つながりが人を元気にして、役割が人を輝かせる」をテーマに、障がいのある方や不登校の子ども、認知症のある方、定年後の方、地域で活動するボランティアなど、多様な人が関わるステージ企画を実施しました。また、加入法人こども園の園児による手話・歌の披露もあり、会場を大いに盛りあげました。

②サンタ宅食の取り組みを実施しました。前回より参加施設(サンタ役)が増え、取り組みの輪が広がっています。特別なイベントとして実施しており、子どもたちも、プレゼントを携えたサンタの訪問を大変喜んで迎えてくれました。

また、毎週お弁当を作ってくださっている施設の皆さんからは、「子どもたちの喜ぶ姿を直接見ることができ、とても励みになる」といった声も聞かれました。このサンタ宅食をきっかけに、学習支援につながったり、学校に通えるようになったり、必要なサービスへ結びついたり、さまざまな“つながり”が生まれています。

加入法人による大阪・関西万博での発表



こども園 園児による手話・歌



障がい者支援施設によるちんどん屋



サンタ宅食

サンタ宅食弁当



### 課題と展望

原点である地域貢献のあり方を今一度振り返りながらこれからの市民力・地域力の維持・向上に向けて、地域課題の解決に向けた活動に誰もが気軽に楽しく参加・参画できる環境や仕組みづくりを進めていくことが重要です。また、多様な主体がつながる機会を増やし、新たな居場所づくりや社会参加、活躍の促進を図るとともに、支え合いや災害時の支援体制の充実など、誰もが安全・安心に暮らすことができる地域づくりを進めていく必要があります。そのためには、市民・事業者・行政がそれぞれの役割を活かしながら、ともに地域のあり方を考え、協働して取り組んでいきます。

### コメント

豊中市は、早くから郊外住宅地として発展してきた地域であり、交通の利便性や教育環境、自然環境のバランスの良さから、大阪市内へ通勤・通学する世帯にとって「住みたいまち」として人気の高いエリアになっています。こうした地域特性のもと、社会福祉法人をはじめとする多様な主体が連携しながら、地域のつながりを大切にしたい取り組みが進められています。本取り組みを通じて、分野を超えた協働や新たなつながりが生まれており、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりに向けた実践として期待されます。

## 「ひとりじゃないよ」を届ける池田

### 取り組んだきっかけや目的

地域課題である「ひきこもり」と「防災」をテーマに、課題の見える化と共有を進め、地域全体で支え合う体制づくりと連携の強化をめざします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

池田市では、多くの住民や団体が生活課題の解決に向けて主体的に活動してきました。しかし近年では、ひとりの力や一つの団体だけでは解決が困難な生活課題が増加しています。そこで、「暮らしやすい地域を共につくろう」を合言葉に、活動者が集い、話し合い、協働して課題解決をめざす場として、「共生のまちいけだプラットフォーム」を令和5年度より立ちあげました。

その取り組みの一つである「学校」プロジェクトでは、学校と地域とのより良い連携をめざし、児童委員、こども園、教職員、不登校支援にかかわる関係機関などが参加し、継続的な取り組みを進めています。あわせて、校区ごとに「不登校の親の会」を設置するHUBプロジェクトも始動しました。

ひきこもり支援については、包括的な相談支援体制づくりをめざし、市が開催する「多機関協働会議」を契機として生まれた事業であり、分野を超えた関係機関・施設が参画し、連携しながら推進しています。

今年度は、「地域で取り組むひきこもり支援」をテーマとした研修会を開催し、ご家族、地域住民、支援者が共に学び、考える機会を設けることで、ひきこもり支援を通じた地域づくりのさらなる推進を図っています。

### ①ひきこもり支援研修会

講師／宮崎大学医学部 助教 久保 浩明 氏

孤立しやすいひきこもり当事者や家族を地域全体で支えるため、理解を深める研修会を開催しました。ご家族や地域の方、支援者が一緒に「ひきこもり」について学び、理解を深めるとともに、池田市の支援チームを紹介し、「ひとりじゃないよ」というメッセージが届く地域づくりをめざしています。

### ②災害ボランティアセンター設置・運営訓練

池田市で地震が発生したことを想定し、災害ボランティアセンターの設置、ボランティアの受付・派遣、情報収集・提供、関係者(行政、団体等)との調整などについて、オープンシナリオ型のシミュレーション訓練を実施しました。工夫した点として、デジタル化を取り入れたボランティア登録・受付の実施や、過去の実践を踏まえた改善点(コロナ禍対応など)の検証を行いました。



災害VC設置・運営訓練の様子



市内で活動しているひきこもり支援団体の情報提供コーナー

ひきこもり支援研修会

### 課題と展望

令和8年度においても、依存症やひきこもりの家族を対象とした研修と災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施を検討しています。

今年度は災害時のボランティア協力団体として、ダイハツ工業株式会社にも訓練にご参加いただきました。次年度以降は、さらに他の企業との連携を進めることにより、支援体制の一層の拡充を図っていきたく考えています。

さらに研修を通じて得た知識や気づきを各施設に持ち帰り、人材育成や日常の備え、支援活動に活用するきっかけとなっています。

### コメント

助成金を活用したことで、学校連携やひきこもり支援、災害ボランティアセンター訓練など、多分野が協働する取り組みを着実に進めることができました。

ひとつの機関だけでは解決が難しい課題に対し、顔の見える関係づくりを重ねてきたことは大きな成果です。今後も研修や企業連携を通じて支援の輪を広げ、誰もが「ひとりじゃない」と感じられる地域づくりを推進していきましょう。

## 地域とともに育てる安心の輪 —施設連絡会の挑戦—

### 取り組んだきっかけや目的

吹田市社会福祉協議会 施設連絡会は、吹田しあわせネットワークの支援体制を強化するとともに、地区福祉委員会等との交流を通じて顔の見える関係を築き、地域と施設の連携を深めることを目的としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

本連絡会は、市内の民間社会福祉施設等が種別や日常の業務を超えて、地域貢献を目的に活動を行っています。

主に生活困窮世帯を対象とした総合相談支援(吹田しあわせネットワーク)においては、経済的支援のみならず、本連絡会のネットワークを生かした人的及び物的支援も行っています。物的支援に関しては、家電や生活必需品の保管を目的として、本連絡会加盟施設の一部の施設内において保管倉庫を確保しています。また2か月に1度、吹田しあわせネットワークCSW会議を開催しており、支援事例の共有や情報交換を行い、吹田しあわせネットワークとしての支援力向上を図っています。なお、令和7年度より「吹田スタイル」と名付け、吹田オリジナルの支援体制を構築しています。

地域との連携においては、施設職員と地域住民との顔の見える関係性の構築をめざし、例年、地区福祉委員会と民生・児童委員協議会との交流会を開催しています。

その他、コロナ禍から取り組んでいる「未来がきらり☆吹田学生応援プロジェクト」については、生活に困窮する学生に対する食材支援として、今年度3回開催しました。本連絡会加盟施設によるフードドライブの実施など、地域ぐるみで支援体制を広げていきます。

### 課題と展望

本連絡会の取り組みは、既存の制度での対応が難しい場合に対し、民間力を生かして迅速かつ柔軟に支援できる強みがあります。本連絡会での日々の連携が地域住民を支えていることを実感しています。

引き続き、施設・地域・社協の協働により、地域住民が安心して暮らせる住みよいまちづくりをめざします。



吹田市社協  
施設連絡会  
事例報告・交流会



未来がきらり☆  
吹田学生  
応援プロジェクト

### コメント

支援者同士の会議や地域住民との交流、学生への支援などを協働して取り組まれてきたことにより、地域と施設が連携する基盤が着実に築かれてきたと感じています。

こうした平時からの積み重ねこそが、迅速かつ柔軟な支援を可能にする「吹田スタイル」の強みであると感じました。また、過去には年末の住宅火災の際にも、福祉施設だからこそ可能な迅速な対応が行われ、連絡会での日頃からの連携が地域住民を支えていることを改めて実感しました。

今後もこの強みを活かし、地域に根ざした実効性のある支援体制がさらに充実していくことを期待しています。

## 地域でつながる安心の居場所と相談の輪

### 取り組んだきっかけや目的

地域住民が気軽に集い交流できる場づくりと、福祉施設のネットワークを活かした身近な相談体制を通して、地域の困りごとを早期に受け止め、支え合いながら安心して暮らせるまちづくりを進めることを目的としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

高槻市民間社会福祉施設連絡会には地域に密着した社会貢献活動を実践する「あんしんねつとあゆむ(以下あゆむ)」があります。あゆむは、「あんしんであんぜんなまちづくり」「ゆるやかにゆめあふれる」「むすびつきつながり」を合い言葉に、身近な地域の困りごとを福祉施設が相談に応じ、連携しながら住みよいまちづくりを進めています。

### ①居場所づくり

社会福祉法人の施設で、共生型子ども食堂「はにわキッチン」と「子ども図工教室あゆむひろば」を開催しました。各事業を通して地域交流や多世代交流の機会、あゆむや施設の取り組みを地域に周知し、社会福祉法人の社会貢献活動を知るきっかけにもつなげています。

### ②暮らしの総合相談事業

市社協が駅前商業施設内にて実施している暮らしの総合相談事業において、毎週月曜日は「身近な福祉相談」としてあゆむが担当しました。市内の異なる種別の施設が連携し、市民からのさまざまな福祉相談に対応・課題解決を図るために幅広い視点の支援体制を整えています。

### ③活動の広報・周知

活動周知の取り組みとして、あゆむロゴのマグネット(車用)の作成、はにわキッチンの子どもの居場所づくり応援ブックを増刷しました。

### 課題と展望

あゆむの発足時のメンバーの想い・熱量を今のメンバーにつないでいくことの大切さや難しさを感じています。皆で想いを共有できるように協力してイベントの実施や施設間の横のつながりができるように交流会・研修会を実施していきます。

今後も想い・熱量をもって福祉施設が社会貢献できるように取り組んでいきたいです。

### コメント

地域交流の場づくりと福祉施設の連携による相談体制が効果的に機能し、多世代交流や駅前での相談支援を通じて地域課題の早期把握につながっている点が評価できます。

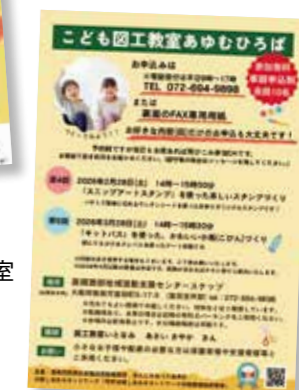
また、周知の工夫により活動の見える化も進んでいます。一方で、立ち上げ時の想いや熱量の継承が課題としてあげられており、今後は交流や研修を通じた共有と連携強化が期待されます。



はにわキッチン  
(ベビークッキング)



はにわキッチン  
イベントチラシ



子ども図工教室  
あゆむひろば  
チラシ



身近な  
福祉相談

## つながり・ささえあい・笑顔あふれる毎日を!

### 取り組んだきっかけや目的

箕面市社会福祉法人連絡会では、社会福祉法人同士の連携強化を図るとともに、高齢・障がい子ども分野を横断した協働を推進し、情報交換を行っています。「つながり ささえあい 笑顔あふれる毎日を!」をテーマに、地域住民とともに地域貢献事業に取り組み、誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくりの推進を目的としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

法人連絡会では、日常から地域と施設の間に見える関係を築き、緊急時にも安心して助け合える関係づくりをめざして取り組みを進めています。

#### ① 災害研修 講師／FEEL Do 代表理事 乗原 英文 氏

「合言葉は、いつもしも～安心・安全・安住に暮らせる福祉コミュニティをめざして～」をテーマに研修を実施しました。

各施設が自らの強みと弱みを整理する中で、特に地域・近隣住民との関係づくりの重要性が共有され、普段から顔に見える関係を築く必要性について意見交換を行いました。

また、災害時に必要とされる7日分の備蓄食材について、保管場所や管理面での課題が挙げられ、地域での共有保管や流通ストック型備蓄の導入などの提案が示されました。



防災研修会

#### ② 地域協働研修会

講師／ふくしと教育の実践研究所 SOLA主宰 新崎 国広 氏

「地域共生社会の推進における社会福祉施設・事業所の役割と期待～社会貢献活動は四方よしの関係づくり～」をテーマに研修を実施しました。

研修会では、対話の場づくりや四方よしの関係づくり、参加のハードルを下げる工夫(参与・参加・参画)について学びました。また、企業に対しては社会的意義に加え、人材育成や地域での信頼向上、職員のやりがいを伝える重要性が示されました。グループワークでは分野ごとに意見交換を行い、卒園生や高校生の居場所づくりや自治会との連携、農家と協働した体験活動など、世代間交流の取り組みが共有されました。



箕面市社会福祉法人連絡会研修

講師／新崎国広氏

### 課題と展望

本取り組みを通じて、平時からの見守りやつながりづくりを一層強化するとともに、災害時にも支え合える体制づくりを進め、地域全体で安心して暮らし続けられる福祉コミュニティの実現をめざします。一方で、支援が必要でありながら把握できていない「顔の見えない関係の人」への対応が課題となっています。今後は、そのような方々を把握する仕組みの検討を進めていきます。また、「支える・支えられる」という一方向の関係ではなく、地域の中で互いに気にかけて、支えあう関係性を育てていくことの重要性についても取り組んでいきます。

### コメント

自然環境と住宅地が共存する箕面市において、地域住民と福祉施設が日常から顔に見える関係を築いていくことは、安心して暮らせる地域づくりにおいて重要です。

本事業では、研修や意見交換を通じて、平時からのつながりづくりや災害時を見据えた支えあいの視点が共有されました。今後も社会福祉法人同士の連携を生かしながら、地域と共に支え合う取り組みの広がりが期待されます。

## つながりが地域を元気にする! 支え合いのまちづくり

### 取り組んだきっかけや目的

摂津市社会福祉施設地域貢献委員会では、地域とのつながりを深めるとともに、施設職員間の連携を強化し、地域福祉の推進を図ることを目的として事業を展開しています。地域交流研修会への参加や、CSW・地域貢献の実務者による情報交換会を通じて、高齢・障がい・保育の各分野を超えた連携や事例共有を行い、地域課題に関する研修を実施し、地域連携を深める機会としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

本事業では、地域福祉の推進と生活課題への対応を目的に、分野を超えた連携や地域交流の取り組みを実施しました。まず、施設のCSWや地域貢献担当の実務者による情報交換会を開催し、困難ケースへの対応や地域貢献の実践事例について共有しました。

高齢・障がい・保育など分野を超えた意見交換を通して、顔に見える関係づくりと連携の強化につながりました。

また、生活困窮者支援および災害時の備蓄を目的として食料を購入し、一部を福祉施設にも保管し、コロナ特例貸付のフォローアップとして相談会で必要に応じて、参加者に食材を提供できる仕組みを構築しました。相談の機会を設けるとともに、いままでは繋がりにくい世帯への新たなアプローチとして食料品を活用しました。

さらに、災害時や地域行事で活用するため車椅子を購入しました。社協フェスティバルでは「福祉を見て・知って・感じてみよう」をテーマに、スタンプラリーや体験コーナーを実施し、車椅子を使った移送車の乗車体験も行いました。開催にあたっては、小中学校にも周知を行い、多くの親子連れに参加いただきました。

### 課題と展望

相談会や食材提供を通して、生活困窮者やコロナ特例貸付中の繋がりがたくとも繋がれない未応答の方への支援のきっかけづくりとなりましたが、継続的な見守りや支援体制の強化が課題となっています。

次年度に向けては、実務者同士のネットワークをさらに深めるとともに、地域イベントなどの取り組みを継続し、地域住民が気軽に参加できる場づくりを進めていきます。

また、災害時の備えや生活困窮者支援の取り組みを通して、地域で支えあう仕組みづくりを一層推進していきます。



移送ボランティア「ピンチヒッター」



情報交換会のようす



小中学生のためのボランティア体験講座



コロナ特例貸付相談会

### コメント

実務者による情報交換や生活困窮者支援、地域イベントの開催などを通して、分野を超えた連携や地域住民とのつながりが進められていると感じました。

食料備蓄や相談会、マルシェの開催は、生活困窮者支援や地域交流、災害への備えにもつながる取り組みとなっています。

人口減少や少子高齢化が進む中、とりわけ鳥飼地区では水害リスクへの対応など地域特性を踏まえた取り組みが求められています。今後も関係機関と連携しながら、地域のつながりを生かした取り組みが継続・発展していくことを期待しています。

## 顔の見える関係が紡ぐ 未来へ向かうまちづくり

### 取り組んだきっかけや目的

島本町社会福祉施設地域貢献連絡会は発足から12年が経過しましたが、住民への周知が十分とは言えない状況にあります。そこで本助成金を活用し、本連絡会の地域貢献活動を広く知っていただく機会をつくり、住民の理解と関心を高めることを目標としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

島本町社会福祉施設地域貢献連絡会は、町内で社会福祉事業を行う施設が連携し、地域の重要な社会資源としての役割を果たすとともに、各施設の専門性を活かして地域住民を支援し、町内の社会課題に取り組むことを目的としています。南山城学園、照治福祉会が新たに加わり、現在24施設が加入しており、より一層の連携強化が期待されています。

具体的な取り組みとして、学校や住民グループからの依頼に応じて専門職を派遣する出前講座を実施しているほか、講座やワークショップ、健康体操などの実践的なプログラムも展開しています。また、社会福祉施設の見学受け入れを行い、小学生が施設の様子を知る機会を提供しています。また、災害時における福祉避難所の開設など、非常時を見据えた体制づくりにも取り組んでいます。

上記のような活動内容を地域住民に知っていただくため、映画上映会を企画。冒頭に本連絡会の活動紹介を行い、映画『港に灯がともる』を上映しました。会場では各施設の地域貢献活動を紹介する展示も実施し、日頃の取り組みを広く発信する機会となりました。



小学校での出前講座



イベントでの施設紹介パネル



映画  
「港に灯がともる」

### 課題と展望

地域と施設の顔の見える関係づくりは着実に進んでいますが、今後は具体的な支え合い活動や人材確保へと発展させていくことが課題です。特に、福祉施設における人材不足は大きな課題であり、地域で暮らす子育て世帯や求職者と福祉の仕事をつなげる仕組みづくりが求められています。現在、就職フェアの開催案が検討されていますが、参加者を増やすためにはハローワーク等の関係機関との連携など、より効果的な企画立案が必要です。

また、他市町村の先進事例だけでなく、実施にあたっての課題や工夫についても共有できる場を設けることで、より実効性のある事業展開につなげていくことが重要です。

### コメント

島本町は交通利便性に恵まれ、豊かな自然環境にも支えられた、子育て世帯が安心して暮らせるまちです。こうした地域特性を活かしながら、地域住民と社会福祉施設が互いに支え合う関係づくりを進めています。

今後は、これまで築いてきた顔の見える関係を基盤に、具体的な支え合い活動や人材確保の取り組みへと発展させ、地域住民にとっても施設にとっても意義ある活動の推進と、連絡会のネットワークを活かした地域福祉のさらなる充実が期待されます。

## ともに生きる豊かな地域社会…能勢町

### 取り組んだきっかけや目的

能勢町社会福祉施設地域貢献委員会は、社会福祉施設と社協が連携し、さまざまな地域課題に協働して取り組んでいます。今年度は社協が行う見守り活動への協力、地域コミュニティへのアウトリーチの強化、災害時の備えについて体制整備を進めたいと考えます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

#### ①給食サービス事業

能勢町では、社協と高齢・障がい分野の社会福祉施設が連携し、月～金の平日に利用者宅への弁当配達を実施するとともに、毎週木曜日にはボランティアによる手作り弁当の配食も行っています。

お弁当希望者(ひとり暮らし高齢者等)には、くりのみ園・三恵園の利用者と職員が週4回配食しているほか、青山荘には調理の協力もいただいています。

こうした取り組みにより、定期的に顔を合わせる中で利用者の小さな変化や困りごとを早期に把握し、関係機関同士で共有することで、地域での見守り・支えあい体制の構築につながっています。

#### ②地域コミュニティへのアウトリーチ

地域で開催される集いの場へ、社協・福祉施設・行政が訪問し、住民の声やニーズの把握に努めました。日常的な関わりを通じて、地域課題の早期発見につなげるとともに、必要な支援へとつなげました。

#### ③災害ボランティアセンター立ちあげ訓練

震災を想定し、災害ボランティアセンターの立ちあげ・運営に向けて、関係機関・団体と連携した訓練を実施しました。多様な主体が連携することで、被災者に寄り添った柔軟な支援のあり方や、非常時における支えあいの重要性について意識の共有を図りました。

### 課題と展望

能勢町は自家用車が生活維持に不可欠であり、その維持費が家計を圧迫し、若い世帯でも就労継続に影響が出るケースがみられます。交通課題は就労や通院にも直結し、世代を問わない地域課題となっています。

今後は、交通課題を含めた地域課題に対し、「2040年を見据えた住みよいまちづくり」の実現に向け、行政や関係機関と連携しながら包括的な支援体制の構築を進めていきます。

### コメント

地域特性により自家用車が生活必需品となっており、同様に地域としての課題にもなっています。町社協では公共交通機関等が利用できない高齢者を対象とした交通空白地有償運送「ふれあい号」の運行も実施しており、交通課題に対する今後の施設と社協の連携に注目していきたいです。



ふれあい給食サービス

災害ボランティア訓練



## つながりの中で進める認知症啓発と防災活動

### 取り組んだきっかけや目的

もりぐち地域貢献委員会は、高齢障がい子どもの地域福祉にかかわる社会福祉法人と事業所が連携・協働し、地域福祉の推進を図っています。今年度は、認知症啓発イベントへの参画及び災害をテーマとした研修を企画し、地域力の向上をめざします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

守口市社協のイベント「ボランティアフェア」において、地域貢献委員会として認知症啓発を目的としたブース出展を行いました。ブースではオレンジロバの手作り体験を実施。参加者が自由にデザインし、楽しみながら認知症への理解を深める機会となりました。ステージ企画では認知症啓発クイズを行い、住民に向けた理解促進を図りました。

また、「もりぐち介護フェスタ」においては、もりぐち介護事業者連絡会と連携し、「笑顔の写真コンテスト」の表彰式を実施しました。入賞者には記念品が贈られ、施設・事業所だけでなく、利用者やご家族も一緒に楽しめる企画として好評を得ました。会場ではPRコーナーも設けられ、福祉人材の確保につながる取り組みも行いました。

さらに、社協ブースでは地域貢献委員会が作成したミニ懐中電灯を来場記念品として配布し、多くの来場者に喜ばれました。

あわせて、別日に実施した防災研修会でも同記念品を配布し、防災意識の向上と地域貢献委員会の周知を図りました。

守口ボランティアフェアでのステージ



もりぐち介護フェスタでは市内事業所をPRしました

### 課題と展望

今年度は体験型プログラムや啓発活動を通じて一定の成果を得ることができました。

次年度は、さらに内容の充実を図り、地域力の向上をめざした工夫を取り入れていきたいと考えます。また、地域住民への周知を強化し、より多くの参加を促していきます。

あわせて、高齢分野にとどまらず、保育施設や障がい施設とも連携を広げ、分野を超えて関係機関が連携しながら、取り組みを進めていきたいと考えます。

### コメント

体験型プログラムや啓発活動を通じて、認知症や防災を身近な課題として地域住民が考える機会づくりにつながる取り組みとなりました。多くの住民が参加し、世代を超えた交流が生まれた点も地域福祉の推進に資する成果といえます。今後も、地域の支え合いの輪が広がっていくことを期待しています。

## ひらく・つながる・支える —ワンストップで寄り添う地域支援のかたち—

### 取り組んだきっかけや目的

社会福祉施設地域貢献連絡会と社会福祉協議会がこれまで積み重ねてきた実践を大切にしながら、専門職同士が横につながり、地域で困りごとを抱える方にワンストップで寄り添える体制づくりを進めています。

「福祉なんでも出張相談会」の開催や、社会福祉施設と社協CSWが連携して行う「出張スマホ相談会」を通じて、大型商業施設とも連携しながら、社会福祉法人の地域での取り組みを広く発信していきます。また、生活にお困りの方を支えるフードバンクの仕組みづくりについても検討し、包括的支援体制の構築をめざします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

近隣の大型商業施設において延べ4日間にわたり「福祉なんでも出張相談会」を開催し、地域住民に対して福祉に関する情報提供や個別相談への対応を行いました。

会場前には各施設のパンフレット等を設置し、周知にも努めました。また、生活にお困りの世帯へ食料品や乳児用ミルクの提供を行うフードバンク事業では、一定量の備蓄を確保し、必要なタイミングで迅速に届けられる体制を整えています。さらに、加盟施設の喫茶スペース等を活用した地域住民対象の「出張スマホ相談会」を開催し、身近で気軽に相談できる場づくりを進めました。

加えて、人権研修を実施し、研修の中でも民生委員や校区福祉委員に対する周知・啓発を行い、地域貢献連絡会の活動を知ってもらう機会にもつながりました。

これらの取り組みにより、早期の相談支援につながるケースも生まれ、福祉への理解促進と地域とのつながりの強化に結びついています。

### 課題と展望

本事業を通じて、専門職同士が横につながりながら、地域の中で困りごとを抱える方にワンストップで寄り添う体制づくりを進めることができました。開催場所を工夫することで、これまで福祉につながりにくかった方とも出会う機会が生まれ、早期の相談支援へとつながる事例も見られました。また、フードバンク事業においては、備蓄を確保し迅速に届けられる仕組みを整えることで、身近な地域で支える体制を構築しました。今後も地域に開かれた社会福祉施設ができる支援体制の充実に努めます。



出張  
スマホ相談会



フードバンクでは必要な方にすみやかに提供できるよう備蓄しています

### コメント

枚方市では、各種相談会の実施により、地域住民が福祉施設とつながるきっかけを多く作っておられます。

また、地域におけるフードバンク事業の実施は、困窮者への素早い支援につながり、誰も取り残すことのない地域共生社会の実現が期待されます。

## 善意がめぐる、やさしさのかたち —46法人で取り組むフードドライブの広がり—

### 取り組んだきっかけや目的

寝屋川市社会福祉協議会地域貢献委員会では、加盟施設と市社協の善意銀行が連携したフードドライブ事業を展開し、困窮者への食支援を行っています。この活動をより推進することをめざし、活動内容の見える化や周知を強化していきたいと考えます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

地域貢献委員会に加盟している46法人で実施しているフードドライブ事業では、各施設に食料品回収ボックスを設置し、職員や利用者家族から協力を得て活動しております。回収された食料品は施設と社協が連携して在庫を把握し、必要に応じて、善意銀行を通して困窮者へお届けしています。

この活動内容を、各施設に受領件数や支援件数を明記した実績報告ポスターを毎月掲示、ポスターグリップを作成して掲示することで、事業の見える化を行っています。フードドライブ協力者が「誰かの役に立っている」と実感することで、福祉観の醸成につながり、地域全体の福祉が向上する取り組みにつながっています。

今年度の研修会では、「こうのとりのゆりかご」当事者である宮津航一氏を講師に迎え、講演会を開催しました。

当事者の立場から語られる言葉は大きな重みがあり、参加者にとって多くの学びと気づきを得る貴重な機会となりました。

加えて、地域貢献委員会として積極的に取り組んだ実践として、加盟法人の事業所職員が小中学校へ出向き、福祉教育を実施しました。

施設の福祉車両の見学や試乗体験、車いすの正しい押し方の体験、障がいに関する講義などを通して、子どもたちが福祉を身近に感じ、理解を深める機会を創出しました。体験を通じた学びは、将来の地域福祉を担う世代の育成にもつながる大切な取り組みとなっています。

### 課題と展望

フードドライブ事業で市内の支援体制が構築されたことで、よりスピーディーな支援ができるようになりました。今後は、地域住民に向けても寄付の呼びかけを進め、市域全体で困ったときに助けあえる関係を築いていきたいと考えます。

### コメント

令和5年度からスタートしたフードドライブ事業が、今や地域での支援に欠かせない存在となりました。このような地域ネットワーク構築の取り組みは、地域共生社会の実現に向けて大変重要な考え方であり、包括的支援体制構築に関する一つのモデルになると感じました。



フードドライブ



「こうのとりのゆりかご」当事者の講演会



小学校での福祉教育

## 学びとつながりを通じて支え合う 地域福祉の取り組み

### 取り組んだきっかけや目的

#### 【相談支援体制・居場所づくり】

- ①施設CSW・スマイルサポーターを中心としたワンストップ相談窓口を設置し、各関係機関の相談しやすい関係づくりをめざす。
- ②施設の見学や交流会、講演会、ボランティアの受け入れ等の継続。
- ③関係機関を含めた相談支援記録法の合同研修会を実施。
- ④大規模災害発生時にも住民が安心できる居場所開設に向けた平時からの備えを検討。

#### 【福祉避難所(災害への取り組み)】

- ①福祉避難所訓練を行う。
- ②大規模災害発生時に必要に応じて住民の心の拠り所となる居場所を開設する。

### 地域の状況や取り組んだ内容

#### ①F-SOAIIP(生活支援記録法)に関する研修会を実施しました。

F-SOAIIPは、6つの視点に沿って記録を整理し、誰が見ても内容を理解できる記録です。多職種・多機関連携の促進および専門性の向上をめざし、主訴を的確に把握できる記録法の有効性について学びました。本記録法を習得することで、支援の迅速性および適格性の向上が期待され、研修で得られた内容を日常業務に取り入れることにより、包括的支援体制の充実に図りました。

#### ②大東市地域貢献委員会フェスタを開催しました。

講演会や研修会、居場所づくり、災害対策など、地域住民の生活を支える地域貢献委員会の活動について広く周知することを目的として実施。当日は多数の地域住民が来場し、相談コーナーをはじめ、認知症VR体験などの体験型企画、遊びのコーナー、物販、スタンプラリー等、多様なプログラムを実施しました。来場者からは「活動を知るきっかけになった」といった声が多く寄せられ、地域貢献委員会の活動内容や役割を周知する有意義な機会となりました。今後も、地域住民との継続的なつながりづくりについて検討を進めるとともに、協力・協賛企業等との相互理解を深め、信頼関係の構築および連携のさらなる発展につなげていきます。

#### ③災害時の取り組みに関する研修として、「精神看護学から学ぶ施設の災害対策」を開催しました。

災害時における利用者および職員の心身のケアの重要性について理解を深め、施設に求められる具体的な災害対応の在り方について学びました。



大東市地域貢献委員会フェスタ

F-SOAIIP

### 課題と展望

これまでの取り組みを通じて、支援内容の見える化や活動の共有が進み、施設と社会福祉協議会が連携する体制が整ってきました。

また、地域住民への周知や参加の広がり、関係機関・企業等との連携においても一定の手応えが得られ、取り組みの意義や役割についての理解が広がりつつあります。

来年度に向けては、これまでに積み重ねてきた実践や経験を整理し、記録方法や進め方の工夫をより一層活かすことで、取り組みの質を高めながら無理のない形で継続していくことをめざします。

あわせて、他の地域活動等との連携を進め、より多くの人に関われる機会を創出することで、地域で支え合う関係づくりを深めていきます。

### コメント

研修やイベントの開催を通じて、支援の質の向上や地域への周知、関係機関との連携づくりが進められました。また、活動の共有や体験型企画などを通して、地域住民に地域貢献委員会の役割や活動を知っていただく機会にもつながりました。今後も、地域住民や関係機関とともに、地域で支え合う関係づくりのさらなる広がりが期待されます。

# ひろがる学び、つながる門真 —ともに支え合う地域づくりの歩み—

## 取り組んだきっかけや目的

門真市内で活動する居場所・学習支援団体から講師を招き、校区福祉委員会、民生委員児童委員協議会、関係機関職員を対象とした研修会を開催し、地域の社会資源の共有や関係者の資質向上を図ります。また、市民を対象とした福祉に関する映画上映会を実施し、福祉課題への理解を深める機会をつくることで、誰もが地域で安心して暮らしていることができる地域づくりと、住民主体による地域福祉の推進をめざします。

## 地域の状況や取り組んだ内容

①「門真の子どもたちがどんな環境に生まれても学べる居場所づくり」～大学生ボランティアによるKADOMA中学生勉強会の取り組み～をテーマに研修会を実施しました。不登校や自殺、貧困など、子どもを取り巻く課題が深刻化する中、子どもの居場所づくりの重要性について理解を深めました。また、地域における気づきや支援につなげるきっかけとなり、「こんな学習支援の取り組みがあることを知ることができ、参加してよかった」との多くの声が寄せられました。

②門真市地域福祉連絡会主催の研修会として、福祉映画「梅切らぬバカ」の上映会を実施しました。参加記念品として「門真市障がい福祉を考える会」より授産製品をご提供いただき、地域の身近な相談窓口マップ「かどまっぷ」の周知を行いました。福祉課題を早期に把握し、適切な対応により予防につなげることの重要性や、住民主体による地域福祉推進の意義について理解を深めました。

③門真市地域福祉連絡会研修会として、「あなたらしくをサポート(らしーく)」から講師を招き、防災講座「災害時のトイレ対策」を開催しました。災害時は自宅での避難生活(在宅避難)が中心となることを踏まえ、凝固剤の使用体験や段ボールを使った簡易トイレの作成を行い、トイレ環境を確保するための備えの重要性について学びました。また、福祉施設においては「命を守り、命をつなぐ」取り組みであるとの考えのもと、災害時でも衛生的な環境を確保する工夫について理解を深めました。災害時のトイレ対策が、健康と尊厳を守るうえで欠かせない備えであることを再認識する研修となりました。

### 課題と展望

今年度は、体験型防災学習施設での体験や防災に関する研修会を開催し、メンバー間の連携強化や普段の備えを意識することを共有しました。令和8年度は、それらの学びを活かし、地域に向けたイベント等を企画することで、門真市地域福祉連絡会としてさらなる啓発を進め、住民主体の地域福祉の推進を図っていきます。

### コメント

「子どもの居場所づくり」「福祉課題の早期発見と予防」「災害に備える地域づくり」をテーマに、各地域で多様な学びと実践の機会が展開されました。それぞれの取り組みを通じて、地域の中での気づきや支えあいの重要性が改めて共有され、体験や対話を重ねるなかで、参加者同士のつながりも着実に広がっていることを心強く感じました。また、日頃からの備えや声かけの大切さについて考える契機ともなりました。



①子どもの居場所づくりに関する研修会  
②福祉映画上映会



③防災講座「災害時のトイレ対策」

# 世代と分野を超えてつながる 地域力向上をめざした防災運動会

## 取り組んだきっかけや目的

令和5年度から本事業の前身となる助成金を活用し、災害時の要援護者支援を行うためにワーキングチームを結成し、災害時の相互協力や情報共有について検討を重ねました。本年度は災害に備えることと施設間の連携を深めることを目的に、分野を横断した防災訓練を実施、災害時のみでなく、平時からの体制強化を図ります。

事後に、課題を整理し、行政等とも共有することで、市全体の防災力の向上をめざします。

## 地域の状況や取り組んだ内容

「TEAM学防災(まなぼうさい)」の協力のもと、「なわてde防災“防災運動会”～地域力は防災力～」を開催しました。

防災力の向上を目的に、訓練に遊びの要素を取り入れ、子ども、障がいのある人、高齢者など分野や世代を超えて参加できる運動会形式で実施しました。

当日は、体や頭を使った共助・自助の体験をゲーム形式で行ったほか、避難所運営シミュレーションや炊き出しを実施し、楽しみながら防災について学ぶ機会としました。運動会終了後には、参加者全員で炊き出しを囲みながら、当日の感想や楽しかったこと、気づいたこと、改善点などを共有する時間を設け、防災について振り返る機会としました。

また、参加者には防災に関する参加賞を配布したほか、ゲームを通して景品も用意するなど、楽しみながら学び、防災への関心を高める工夫も行いました。

### 課題と展望

防災運動会の実施を通じて、防災を身近に感じてもらうとともに、市民と施設のつながりを深める機会となりました。

来年度に向けては、「地域力は防災力」という考えのもと、市民とのつながりをさらに深めながら、防災に限らず、地域のことを一緒に考えていく場づくりを進めていきます。障がいのある人、ない人、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できるよう取り組み、内容や運営方法の工夫を重ねています。あわせて、地域の防災資源を分かりやすくまとめたパンフレットやチラシを作成し、継続的な情報発信を行います。これまでの「広く周知する」取り組みから、「理解を深め、実践につなげる」取り組みへと発展させることで、地域全体の防災力向上につなげていきます。

### コメント

防災をテーマに、地域住民が気軽に参加できる機会が創出されました。訓練に遊びの要素を取り入れることで、子どもから高齢者、障がいのある人まで幅広い世代が参加しやすい工夫がなされており、防災を身近なものとして考えるきっかけづくりにつながったものと考えられます。

イベントを通じて市民と福祉施設、関係団体とのつながりが深まり、地域で一つの事に取り組んだ経験は大きな成果といえます。

今後も、地域貢献の取り組みへとつながっていくことが期待されます。



地域の方に多数参加いただき、つながりが広がりました。

なわてde防災(防災運動会)



## 地域に届く「ほっとかれへん」想い ～CSWの実践と地域の福祉を学ぶ取り組み～

### 取り組んだきっかけや目的

交野市におけるCSWの活動や実践事例をまとめた事例集を作成し、市民や専門職へ広く周知することで、CSWの役割や取り組みへの理解を深めます。あわせて、個人や地域における支え合いの仕組みづくりを促進するとともに、関係する専門機関との連携強化を図ることを目的としています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

事例集『「ほっとかれへん」人がいる。』を作成しました。本冊子は、福祉のなんでも相談窓口であるCSWの役割や活動内容、相談窓口マップ、支援事例などを掲載した小冊子として約200部発行しました。作成にあたっては、福祉施設職員やCSWなど多職種が集まる合同会議の中で意見を出し合いながら内容を検討し、地域との連携の取り組みや実際の支援事例を掲載しました。完成した事例集は、地域住民や民生委員、行政等にも周知を行い、CSWの活動や福祉施設の役割を知ってもらう機会となりました。



交野市CSW活動事例集

また、「きみのしらないかたの ザ☆クイズラリー2025」を実施し、市内の福祉施設を巡りながらクイズに答える企画を通して、施設見学や職員との交流を行い、福祉の仕事や施設の役割について学ぶ機会となりました。夏休み期間中の開催としたことで、子どもや家族連れの参加もあり、自由研究の題材としても活用されました。



親子でクイズラリーに参加



クイズに答えてクリア認定証をもらいました

### 課題と展望

事例集の作成やクイズラリーの実施を通して、CSWの活動や福祉施設の役割について知ってもらう機会をつくることができました。一方で、より多くの市民や関係機関に取り組みを知ってもらうためには、周知方法の工夫や継続的な情報発信が課題といえます。今後は、事例集の活用や地域行事等と連動した活動を進めながら、福祉施設や関係機関との連携をさらに深め、地域の中で福祉を身近に感じてもらう機会づくりを継続していきます。

### コメント

本事業では、CSWの活動を事例集としてまとめるとともに、クイズラリーの実施を通して福祉施設を身近に感じてもらう機会がつけられました。子どもや家族連れが施設を訪れる機会が生まれるなど、地域住民が福祉について学び、関心を深めるきっかけとなったものと考えます。今後もこうした活動が広がり、地域福祉の推進につながることを期待されます。

## 福祉の魅力をぎゅっと集めて みんなで発信する東大阪

### 取り組んだきっかけや目的

東大阪市社会福祉団体連絡会では、連絡会の活動内容や各団体の特色を広く発信し、地域への周知と福祉の魅力向上、さらには人材確保につなげることを目的に、施設種別を横断したホームページの作成をします。

現場職員の声も反映しつつ、福祉の仕事に興味がある方や地域住民にとって分かりやすく、親しみやすい内容を検討し、東大阪市における福祉分野のさらなる発展と、安定的な人材確保をめざします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

当連絡会では、役員レベルの施設相互の情報共有と連携強化に努めています。また、従事者対象の研修会では、専門性の向上と職員同士のつながりづくりを進めてきました。

福祉施設の活動の周知やその担い手の確保、育成という課題が明らかになり、重要なテーマとして共有しました。

これを具体化するため、7月から「福祉人材確保プロジェクトチーム」を結成し、社会福祉団体連絡会と事務局である社協が関係者と合同で、ホームページ作成の検討を重ねました。その成果として、「ジョブマッチング東大阪」が完成しました。

本ホームページでは、各施設にアカウントを発行し、それぞれが主体的に施設の魅力や最新情報を発信できる仕組みを整えています。また、会議を重ねる中で種別を超えた顔の見える関係が深まり、施設間の連携強化にもつながったことも成果のひとつです。

### 課題と展望

ホームページの作成が無事完了し、福祉施設の魅力発信の基盤は整いました。今後は、会議内でも意見のあった社会福祉法人としての地域貢献事業の広報強化をリンクさせるため、ホームページ上に大阪しあわせネットワークのコラム掲載や外部リンクの設置などを通じて、取り組みの発信力を高めていきたいと考えています。また、人材確保の観点からは、スカウト機能の導入なども検討しており、さらなるブラッシュアップを進めていきます。



第1回 CSW・スマイルサポーター等 交流会



HP東大阪ジョブマッチング



東大阪市団体連絡会の説明

### コメント

「魅力ある施設づくり」と「人材の確保・育成」というテーマに、連絡会として共働しながら仕組みを整えたことは、東大阪市の社会福祉法人が連携した地域支援の体制づくりのきっかけとなりました。それだけでなく、今年度は団体連絡会として初めての交流会も実施され、顔の見える関係も強化されたことでさらに精力的な活動を行う土壌も整いました。地域貢献事業の発信強化など、より一層の発展が期待されます。

## 「行政×社協×社会福祉法人」 三位一体の『八尾モデル』

### 取り組んだきっかけや目的

「八尾市社会福祉協議会 社会福祉施設連絡会」では、複雑多様化する生活課題や地域課題の解決に向けて、行政、社協、社会福祉法人が協働して制度だけでは対応しきれない生活課題にも柔軟に対応できる包括的な支援体制の構築をめざしています。今年度は、包括的福祉支援体制づくりをテーマにした研修や地域でのワークショップ、イベントなどを通じ、社会福祉法人を広く周知するためのツールとして施設連絡会のホームページのリニューアル、活動PRパネルの作成などを行います。



[多機関・多職種が協働した包括的福祉支援体制の構築に向けて]をテーマとした講演会



「多機関・多職種協働による」ワークショップ



「地域とともに歩む社会福祉法人の役割」について学ぶ研修会を開催

### 地域の状況や取り組んだ内容

各小学校区で地域福祉活動を展開している地区福祉委員会が開催している「ワークショップ(住民懇談会)」に社会福祉法人として参加し、地域における福祉施設の役割や取り組みなどを紹介しました。

研修会では、吹田市社協・吹田市施設連絡会を講師に迎え、「地域と社会福祉法人の連携のあり方」など実践的な取り組みを学びました。その後、「地区福祉委員会・民生委員児童委員協議会・施設連絡会」の役員交流会を開催し、お互いが協働して地域福祉の推進を図り、次年度より各保健福祉圏域での交流会の開催を確認しました。当日は、ふくしと教育の実践研究所SOLA主宰 新崎国広先生より「多機関・多職種協働による地域づくり」をテーマにワークショップも開催しました。

また、福祉施設に入職10年未満の職員を対象に、摂南大学現代社会学部 上野山裕士先生を講師に迎え、高齢・障がい・児童の分野を超えた「包括的な福祉支援体制づくり」講演会やワークショップを毎年開催しています。次世代を担う職員の主体的な姿勢が印象的でした。

施設連絡会総会で開催した理事長・施設長向けの研修会では、「地域での社会福祉施設の役割と公益活動の意義」をテーマに新崎先生より、地域とともに歩む社会福祉法人の役割を熱くご講演いただきました。

### 課題と展望

複雑多様化する生活課題や地域課題の解決に向けて、八尾市では複数の社会福祉法人と社協が連携して支援する『八尾モデル』があります。高齢・障がい・児童の各分野の社会福祉法人が横断的に連携し、行政、社協、社会福祉法人の協働による地域福祉の推進を図りたいと考えています。今後の地域福祉の展望として、少子高齢化や地域コミュニティの希薄化などを背景に、既存の地域福祉団体の担い手不足などの課題が顕著になっている中、社会福祉法人の専門性や施設機能、使命感などは地域福祉を推進するにあたり不可欠な存在であると考えています。

### コメント

一連の取り組みを通して、多様な立場の人々が出あい、語りあい、学びあうことで、地域福祉をともに創る土壌が着実に育まれてきました。顔の見える関係の広がり、支援の輪を強くし、住民一人ひとりの安心へとつながっていきます。対話と協働を重ねながら、社会福祉法人の専門性を地域に生かし、誰もが住み慣れたまちで自分らしく暮らし続けられる地域づくりが進められています。

## 生活をほっとかへん。まちをほっとかへん。 —福祉施設が関わる地域福祉の現在地—

### 取り組んだきっかけや目的

河内長野市社会福祉施設連絡会は、本年度設立10年の節目を迎えました。施設種別を超えた連携と、行政・民生委員児童委員・福祉委員等との協働を基盤に、地域福祉の推進を図っています。各施設の専門性やネットワークを活かし、実務担当者会議での協議を重ねながら、地域ニーズに応じた取り組みを展開。個の支援と地域支援を一体的に進め、生活困窮者支援や食の支援、福祉避難所運営など災害時を含む支援体制の強化をめざし、研修を通じて地域への周知と理解促進を図ります。

### 地域の状況や取り組んだ内容

河内長野市まちづくり推進課と河内長野市社会福祉協議会の協働主催により、12月20日、河内長野市役所で「つながるまちづくり交流会」を開催しました。当日は、大阪ボランティア協会事務局主幹の青山織衣氏、大阪公立大学都市科学・防災研究センター／現代システム科学科教授の生田英輔氏を講師に迎え、防災を切り口に地域課題の解消と多様な主体の協働について学びました。研修内ではワークショップも行い、福祉施設連絡会所属施設や関係団体が活動や課題を共有し、分野を超えた顔の見える関係づくりを深めました。

また、年末の生活不安が高まりやすい時期にあわせ、12月23日にイズミヤゆいテラス河内長野で「ほっとかへん。年越し応援隊2025」を開催。会員施設のフードドライブで物資を確保し、食材配布と相談会を実施しました。来場117名、配布270点、相談は当日12件・後日14件と、継続的な支援につながる取り組みとなりました。



つながるまちづくり交流会

「つながるまちづくり交流会」チラシ



施設連会と協働で実施

「ほっとかへん。年越し応援隊」の案内チラシ

### 課題と展望

市内の支援者が集まる会議の中で課題として「制度にあてはまらないが支援が必要なケース」への対応があげられました。そこで、市全体を支える取り組みとして「HOTねつと」が立ちあがりました。施設連絡会でも、各施設が連携を取り、地域全体がつながることで支援の幅を広げ、より柔軟に対応できることを確認しました。今後はこのネットワークへの参画をさらに促し、地域での情報共有が進むよう取り組んでいきます。

### コメント

河内長野市の地域課題の一つとして「外出の不便さ」があげられます。高齢化の進行や公共交通の状況を背景に、買い物や通院が難しいとの声が地域住民から寄せられていました。2018年には移動支援をテーマに話しあいを行い、福祉施設が地域貢献の取り組みとして、運転者の確保や車両の提供など、それぞれの強みを生かした活動を進めてきました。こうした実践の積み重ねにより、地域課題を起点に考えるまちづくりの重要性が高まりました。

平時の外出支援や顔の見える関係づくりは、防災の観点からも災害時の安否確認や避難支援につながる可能性があり、福祉施設が住民とともにまちをつくるという意識が育まれています。

## これまでの歩みを力に 松原のまちに育つ支え合いのかたち



研修会の様子

### 取り組んだきっかけや目的

施設間や施設と社会福祉協議会が連携し、地域で困りごとを抱える方への支援を迅速に行う体制づくりを目的として取り組みを進めるため、福祉施設へブラストメール(一斉配信メール)を活用した情報共有の仕組みを整備し、必要な物品や支援に関する情報を速やかに共有できる体制づくりを行います。

また、実務担当者会議を開催し、ケース検討や対応事例の共有を行うことで、担当者同士が学び合いながら支援力の向上と施設間の連携強化を図ります。

さらに、地域住民や関係機関に加盟施設の取り組みを広く知っていただくことを目的に施設紹介冊子のリニューアルを進めるとともに、災害時の対応力向上に向けてBCP(事業継続計画)に関する研修会を開催し、発災時の初動対応や平時からの備えについて検討する機会を設けます。

松原市地域貢献  
委員会冊子



介護・福祉BCP  
研修チラシ

### 地域の状況や取り組んだ内容

能登半島地震の際、行政より「避難先として市内に子どもが来る可能性があるため、子ども服の在庫があるか」との問い合わせがありました。しかし当時は在庫として保管しておらず、その旨を報告したところ、保育園の園長から「声をかければ集められるよ」とのお話をいただき、物資や情報を迅速にやり取りできる体制づくりの必要性を強く感じました。そこで、地域貢献委員会が中心となって火災の被災者支援を行った他市の事例も参考にしながら、迅速に物資や情報のやり取りを行う仕組みを導入しました。

具体的には、ブラストメール(一斉配信メール)を活用し、加盟施設法人へ情報提供を行うとともに、物品提供の可否を確認できる仕組みを整備しました。加盟法人からの応答を受けて地域貢献委員会が物品提供のコーディネートを行い、必要な物資を迅速に届ける体制を構築しています。また、この仕組みを活用し、企業などから寄付があった際には各施設へ一括して案内を行っています。さらに、実務者レベルでの連携強化を図るため実務担当者会議を開催し、ケース検討を通じて支援方法や対応状況を共有しました。加えて、BCP研修として小濱介護経営事務所代表の小濱氏を講師に迎え、施設での訓練・研修実施に向けたポイントについて解説していただき、発災時の初動対応や平時からの備えについて検討する機会を設け、災害対応力の向上にも取り組みました。

### 課題と展望

加盟法人施設へのブラストメールによる情報提供と物品提供のコーディネートにより、必要な物資を迅速に届ける体制を構築することができました。また、実務担当者会議の開催や対応事例の発表を通じて施設間の情報共有が進み、連携の強化と支援力の向上につながりました。さらに、施設紹介冊子のリニューアルにより地域や関係機関への情報発信も進めることができました。BCP研修会では、発災時の初動対応や平時からの備えについて検討する機会を設け、災害対応力の向上にも取り組みました。今後は、こうしたこれまでのつながりをさらに強化し、法人間のネットワークをより充実させることで、地域における迅速かつ効果的な支援体制の構築をめざしていきます。

### コメント

松原市は、先駆的に社会福祉法人が社会福祉事業に取り組んできた歩みがあり、その積み重ねの中で地域福祉を担う存在として顔の見える関係が築かれてきました。その基盤を生かしながら、福祉施設と社会福祉協議会が連携し、地域の困りごとを早期にキャッチして支援につなげる体制が着実に広がっていることは、大変意義のある取り組みであると感じました。さらに、助成金を活用したBCP研修の実施や施設紹介冊子のリニューアルなど、平時からの備えや情報発信の強化にも取り組まれており、こうした積み重ねが地域の支え合いの体制づくりにつながっているのと感じました。

今後も、こうした実践が地域の支え合いの輪をさらに広げていくことを期待しています。

## ～困ったときはお互いさま! フードパントリー発・みんなでつくる地域の笑顔～

### 取り組んだきっかけや目的

柏原市の民間社会福祉施設連絡会(地域貢献委員会)(以下「施設連」)では、実務担当者委員会等において「他施設の活動が分からない」「地域貢献の進め方が共有されていない」「地域との関わりが少ない」といった課題があげられ、情報共有と連携強化の必要性を確認し、協議を行いました。その結果、今年度は①施設連絡会の周知、②令和6年度から実施しているフードパントリーの周知、③災害発生時の対応に関する研修の実施を柱に取り組みます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

施設連では、一時的に生計の維持が困難となった方に対し、給付金の支給と相談支援を行う「生活支援事業」を実施しています。その実践を通じて、経済的支援に加え、食材や日用品など生活に直結する物資支援をあわせて行う体制整備が課題として明らかになりました。そこで、制度の狭間にある世帯や緊急性の高いケースにも迅速に対応できるように、昨年度からフードパントリー事業に取り組んでいます。現在は社会福祉法人10施設を寄贈先とし、4施設で食品や日用品の受け取りが可能な体制を整えています。

今年度は、さらに活動の周知を図るためリーフレット1万部を作成し、既存チラシを増刷し、生活困窮者支援の窓口や地域の相談機関、関係機関へ配架しました。

1月29日には柏原市政策推進部危機管理課から講師を迎え、「能登の教訓を地域に活かす福祉防災ワークショップ」を実施しました。

災害時における福祉施設の強みや役割について活発な意見交換を行い、社会福祉法人が担う臨時福祉避難所としての意識向上につながる有意義な研修となりました。



地域に活かす福祉防災研修



フードパントリー リーフレット

### 課題と展望

フードパントリーを実施している施設の周知を課題とし、チラシやリーフレットを増刷・作成しました。関係機関や団体、住民が集まる場へ出向き、説明時のツールとして活用していきます。また、災害を見据え、公助に加え共助の視点を大切にし、福祉施設間のつながりを深めながら、少しずつ輪を広げていきたいと考えています。

### コメント

フードパントリー活動に携わる中で、地域で生活にお困りの方々を支える取り組みの意義と、その役割の大きさをあらためて感じました。食料をお渡しするだけでなく、声をかけ合いながらつながりを築けることが、この活動の大きな価値だと実感しています。また、職員にとっても自施設の地域貢献を知る機会となり、誇りややりがいの醸成につながりました。こうした積み重ねが、施設間や社会福祉協議会との信頼関係を深め、連携した取り組みを支える土台になっていると思います。

## つながり、結びあう。ともに創る地域のかたち

### 取り組んだきっかけや目的

羽曳野市福祉施設連絡会は、市内の社会福祉法人の相互連絡調整、交流並びに社会貢献事業への協力等を図り、地域福祉の推進に努めています。本助成金を活用し、地域住民へ活動の周知、加盟施設の分野を超えた交流、災害時の対応について学ぶ機会を設けます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

羽曳野市福祉施設連絡会では、隔月で実務担当者会議および役員会を開催し、情報共有と連携を強化しています。あわせて、休止していたホームページを羽曳野市の地域貢献事業に活用するようにリニューアル。実務担当者を中心にプロジェクト委員会を立ち上げ、調整を重ねながら、本会において方向性の共有を行い、作成を進めました。

さらに、障がい分野や児童分野の福祉施設を見学し、他分野の取り組みを実際に見て学ぶことで、地域における福祉施設の役割や存在意義を共有し、相互理解を深めました。

その中で、災害時の対応として、近年増えている外国籍の住民への適切な声かけを学ぶため、「やさしい日本語」をテーマとした研修をLICはびきので開催しました。当日は(一社)チームやさしい日本語から講師を招き、施設現場で実践できる分かりやすい伝え方や、災害時を含めた要配慮者への適切な声かけについて学びました。

### 課題と展望

今年度から担当者会議を開催しました。会議では、福祉施設が行う地域貢献や、生活困窮者支援における関係機関との連携について話しあい、現場レベルの顔が見える関係づくりが進むなどの成果がありました。

一方、地域支援の連携強化まで十分に進んでいないことは課題として残っています。担当者会議や役員会では施設見学会も実施し、役員・担当者それぞれの視点で意見を共有できる機会として好評でした。今後も継続して実施するとともに、ホームページを随時更新し、福祉施設連絡会の活動内容や各施設の地域貢献の取り組みを発信していきます。

### コメント

今年度から開催されている担当者会議では、現場の職員同士が思いや課題を共有する機会が得られ、また、施設見学を通じて加盟施設同士の相互理解が進みました。こうした取り組みを通じて、広く地域を理解し、福祉施設連絡会が一体となって地域を支えるという意識が感じられます。



「やさしい日本語」研修風景



第2回見学会羽曳野荘(児童)



第1回見学会 はびきの園(障がい)

## 地域とつながり続ける支援をめざして —包括的支援体制の構築に向けた研修会とはっぴいレンドの実践—

### 取り組んだきっかけや目的

藤井寺市社会福祉施設連絡会では、民間施設ならではの自由で柔軟な対応、関係機関から信頼される公的な役割、地域の身近な相談先としての存在、そして専門職による相談や生活支援ができる専門性という四つの特性を大切にしています。これらをより効果的に発揮できるよう、今年度においては、災害時、平常時にも活用できる共有備品の購入を進めます。また、福祉施設が取り組む包括的な支援体制の構築に向けた研修や、小委員会「とっとり委員会(実践者の会)」による実践者同士の学び合いと意見交換の機会を設け、連携の強化を行います。

### 地域の状況や取り組んだ内容

個別の総合相談を通して困窮状況を丁寧に把握し、必要に応じて一時貸与する仕組み「はっぴいレンド」をスタートしました。この事業では、物品を貸与するだけでなく、支援期間中の継続的な見守りを行い、生活が安定した段階で返却してもらいます。

貸与物品は災害時に活用することを想定されており、防災の取り組みのひとつとして機能しています。

また、2月9日には藤井寺市民総合会館で藤井寺市と共催で、「包括的支援体制整備の意義と各主体への期待」をテーマに研修を開催しました。講師に日本社会事業大学 大橋謙策名誉教授を迎え、福祉施設や社協、行政、民生委員、地域住民がそれぞれの役割を担い、分野を超えて連携することの重要性を学びました。

さらに「とっとり委員会」では、3月6日に茨木市文化・子育て複合施設を視察。複合施設における実践を学び、本市での活用を見据えた具体的な意見交換を行い、今後の取り組みの方向性を共有しました。

### 課題と展望

「はっぴいレンド」の物品貸出し事業については、安定的に運用できる体制を整備するとともに、必要とされる方々に情報が届くよう周知方法の工夫・充実を図ります。また、施設連絡会の取り組みをより広く知っていただくため、民生委員との合同研修会の開催を検討していきます。

顔が見える関係づくりを進めることで、地域における連携体制のさらなる強化を進めていきます。



研修会「包括的支援体制整備の意義と各主体への期待」



「はっぴいレンド」貸出できる物品(一部)」

「おにクル見学会」での意見交換



### コメント

藤井寺市社会福祉施設連絡会(地域貢献委員会)は、とっとり委員会を定期的に行うことで、実践者同士が学び合い、支援の質を高めています。

「施設の中だけで支援を完結させるのではなく、地域とつながり続ける支援」を目標に一体となって、地域の課題に向き合い福祉施設の「地域化」をより具体化する実践として着実に推進されています。

## 地域の「あったらいいな！」 福祉施設と社協の協働

### 取り組んだきっかけや目的

社会福祉施設連絡会では、福祉施設で取り組みたいことや実施可能なことが地域のニーズに合致しているのかといった意見が出されました。

これを踏まえ、今年度は地域の実情を知り、あわせて福祉施設の取り組みを広く知っていただくことで、地域づくりをともに進めることを目的とした研修会を実施します。

また、社協と福祉施設間での円滑な情報共有を図るため、連絡体制の構築としてグループウェアの導入を検討します。

### 地域の状況や取り組んだ内容

令和7年度大阪狭山市社会福祉施設連絡会研修会「地域課題を知り施設連絡会の社会貢献活動を考える」を、令和8年3月4日にサヤカホール・コンベンションホールで開催。施設関係者26名、地域住民38名の計64名が参加しました。講師は桃山学院大学社会学部ソーシャルデザイン学科教授の小野達也氏をお招きし、「これからの福祉 社会福祉施設の役割とは～幸福を生み出す増進型地域福祉へ～」をテーマにご講演いただきました。講演後は日常生活圏域ごとに分かれ、地域の気になる点や課題について「あったらいいな」を共有したグループワークを行いました。参加者からは「福祉は地域でつくるものと実感し意欲が高まった」「対話から新たな取り組みが生まれる可能性を感じた」との声がありました。あわせて、福祉施設と住民間の情報共有を円滑に進めるため、事務局である社協としてグループウェアの導入を進め、今後の連携強化と継続的な情報発信の基盤整備を図ります。

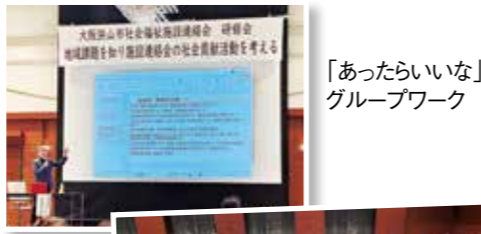
### 課題と展望

今年度の研修は、社会福祉施設連絡会が主催となり、地域の方々と「あったらいいな」をともに考える初めての取り組みとして実施しました。グループワークでは前向きな意見がたくさんあり、理想の実現に向けて一歩が踏み出せたのではないかと感じました。

このような取り組みははじまったばかりであり、具体的に何をどのように協働すれば良いのか、どうすれば実現できるのかなど、考えることはたくさんあります。今回の研修で得られた「あったらいいな」のアイデアを今後に生かしていくため、継続的な取り組みとして活動していきたいと考えています。



講演会



「あったらいいな」  
グループワーク



グループ  
ワークの  
ようす

### コメント

大阪狭山市社会福祉協議会では、高齢の方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、買い物や通院、趣味活動等の外出を運転ボランティアが支える住民同士の助け合い事業「さやりんおでかけサポート」も実施されており、地域に根ざした実践として注目されています。また、検討されているグループウェアの導入により、福祉施設と地域との連携がより迅速かつ確実に行われる体制が整備されていくことで、今後のさらなる展開が期待されます。今回の研修会におけるグループワークのアンケートからも、地域のみなさまの前向きな意見や主体的な関わりの姿勢がうかがえ、地域全体で福祉を創りあげていくとする機運の高まりが感じられました。

今後もこうした取り組みを通じて、地域共生社会の実現に向けた一層の発展が期待されます。

## 地域で出会い、地域で支える ～「太福しごと市」と笑顔広がる交流の取り組み～

### 取り組んだきっかけや目的

太子町では、同じ福祉分野に携わる関係機関が顔の見える関係を築き、多機関協働を推進しています。社協と社会福祉法人・福祉施設間の意見交換が行われた中で、人材不足に悩む社会福祉法人と、町内および近隣他市町村に埋もれている求職者や地域での福祉的な活動の担い手を発掘したいという声があがりました。既存の就職フェアでは「町内へ通勤可能な人」という条件でのマッチングが難しい状況があったことから、町内在住者等を対象とした就職フェアを開催します。

あわせて地域と社会福祉法人とのつながりを深める取り組みとして落語会の開催をします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

求職者と社会福祉法人のマッチングを目的とした「太福しごと市」を開催。10法人が出展し、開催場所の万葉ホールでは、ブースの設置など和やか雰囲気の中行われました。就職相談は22件ありました。直接話をすることで、子育てなどで勤務時間に制約がある方や、新卒予定の学生など、来場者それぞれの生活状況に合わせた勤務内容を相談できる貴重な機会となりました。

今回は、町内で活躍したい求職者と、人材不足で悩む施設とのマッチングにより、双方が地域を支える担い手となるイベントになりました。

また、落語会は今年度2回開催し、会場となった福祉施設では、入所者と地域住民がともに笑いあう世代を超えた交流の場となり、施設が地域に開かれた存在であることを知ってもらう機会となりました。

### 課題と展望

太福しごと市では、普段の相談会などでは関わらない元気なシニア層と出会う場にもなりました。社会福祉法人は人材確保、求職者は自分に合った働き方、社協はいきがい人材センター・有償ボランティアへの登録など、地域の担い手候補とつながる三方良しの取り組みとなることをめざしており、次年度以降も企画をブラッシュアップしていきたいと考えています。また、太福落語会では施設の利用は知られていないものの、どんなサービスを提供し、どんな方が利用しているかを知らない住民がいる中で、地域と社会福祉法人の距離を縮めることを目的とした取り組みに多数の住民の参加を得ました。

これを切り口として、次年度以降も住民と距離の近い社会福祉法人としての周知活動を推進したいと考えています。



太福しごと市  
チラシ



太福落語会チラシ

### コメント

本事業を通じ、地域住民と施設双方の思いをつなぐことの大切さを改めて実感しました。就労に至らなかった方にも地域での役割を提案できる仕組みづくりに大きな可能性を感じます。

今後の町内における施設と社協の連携が深まり、より実りある取り組みへと発展することが期待されます。

# つながる力を地域の力へ —社会福祉法人と社協の協働による新たな地域貢献

## 取り組んだきっかけや目的

研修会・実践報告会を実施し、地域貢献委員会加盟施設同士の情報交換及び地域貢献活動の意義や取り組むための手法を学びます。

## 地域の状況や取り組んだ内容

岸和田市では、昭和40年代に「三木会(さんもくかい)」という通称で民間社会福祉施設協議会が設立され、50の福祉施設が参加し、施設間の情報共有や連携強化を図りながら、地域に根ざした福祉の向上をめざして活動をしてきました。今年度から同協議会内に地域貢献委員会を設立し、活動の深化を図っています。

### ①研修会「社会福祉法人・福祉施設の連携・協働による地域貢献の可能性」

南山城学園の岡崎貴志氏を招き、社会福祉施設と社協のさらなる連携・協働をテーマに講演いただきました。また、大阪府内市町村社協における地域貢献委員会活動内容の実践として、和泉市社会貢献事業におけるクラウドサービスSlackの運用状況について、ピオラ和泉の井口真吾氏から報告をいただきました。報告では、地域貢献委員会加盟施設間での連絡ツールの活用や、物品・食材の保管状況の共有方法、これらの運用状況について説明いただきました。

### ②CSW・スマイルサポーター等交流会・地域貢献委員会の実施

地域貢献委員会主催でCSW・スマイルサポーター等交流会を開催しており今年度は2回実施しました。高齢施設、保育施設、児童養護施設、障がい施設など種別を超えて交流しています。

## 課題と展望

令和7年度に三木会の中に地域貢献委員会が発足して活動しています。役員を選任や委員会の運営方法の決定など、忙しい中で研修会を実施されました。地域貢献委員会の参加者の連絡ツールや物品管理などについても勉強会も実施しました。いろんな企画が検討されていて岸和田市社協と地域貢献委員会とがうまく協働して、今後はさらに発展が期待できると考えます。

課題については、地域貢献委員会への参加施設の拡大と多職種連携が今後さらに必要と感じます。

岸和田市地域貢献委員会研修



CSW・スマイルサポーター等交流会



Slackの運用を説明する  
ピオラ和泉井口氏



南山城学園  
岡崎氏より講演

## コメント

誰もが参加しやすい仕組みづくりや他分野との連携機会の創出を進めていくことが重要です。これまでの取り組みにより一定の基盤が整った今、次の段階として「広がり」と「つながり」を意識した展開が求められています。

分野や職種の枠を超えた出会いと協働を促進することで、多職種で構成されたチームによる地域貢献活動がさらに充実し、地域課題に対する対応力の向上が期待されます。

# あつまる善意、ひろがる支え合い —施設と地域がつくる、やさしい福祉の循環—

## 取り組んだきっかけや目的

泉大津市社会福祉協議会地域貢献委員会は、種別を超えた社会福祉施設相互の連絡調整、交流並びに社会貢献事業への協力を図り、地域福祉推進を行っています。助成金を活用し、フードドライブ支援事業の実施体制の整備及び他市の取り組みについて学ぶ機会を設けます。

## 地域の状況や取り組んだ内容

フードドライブ支援事業を応援する際に、貸出用の回収ボックスとのぼり、保管場所用のスチールラックやコンテナ等を整備して実施しました。加盟施設である覚寿園の協力で、フードドライブを実施したところ7kgの食材が集まりました。その後、ふれあいまつりでもフードドライブブースを出展するにあたり、会員施設内にフードドライブのパンフレットを掲示しました。掲示期間中にはこども園の園児の保護者や住民からフードドライブについて問い合わせなどもあり、地域における支え合いについて周知する機会にもなりました。ふれあいまつり当日には、食料品・日用品あわせて87kgが寄せられ、そのすべてが市社協フードバンクを通じてこども食堂や生活困窮者等への支援に活用されました。

また、地域貢献委員会の活動を推進するため、他市地域貢献委員会の活動報告を聞く機会を設けました。社会福祉法人みささぎ会ソーシャルリレーション推進室/室長 本直志氏を講師に招き、『つながる施設、広がる支え、誰も取り残さない社会へ』をテーマに地域貢献委員会の地域貢献活動についてご講演いただき、泉大津市の今後の取り組みを考えるきっかけとなりました。

フードドライブ応援プロジェクト／覚寿園



## 課題と展望

フードドライブ支援事業には、多くの食材が集まり一定量の成果を得ることができました。会員施設内へのパンフレット掲示による住民への福祉的取り組みの周知もできました。この取り組みを継続しつつ、地域貢献委員会として発展した取り組みを考えていきたいと思えます。

## コメント

フードドライブの実施から困窮者支援まで、施設と社協が一体となって取り組まれています。今後も周知方法や、設置場所を工夫することで、より良い地域へと発展することが見込まれます。地域に根ざした社会福祉法人と一緒に地域福祉を推進できるまちづくりが期待されます。

泉大津市フードドライブ応援プロジェクト



## 社会福祉施設と社協が担う地域福祉 ～両輪で進める包括的支援体制の構築～

### 取り組んだきっかけや目的

泉佐野市民間社会福祉施設協議会は、加盟施設の振興および親睦、市社協との連携推進のため調査・研究・協議を行っています。本協議会内に市社協、自治会、民生・児童委員等と社会福祉法人・施設が一層の連携をとることを目的とした「泉佐野市地域福祉推進委員会」を設置し、多機関協働を推進します。

### 地域の状況や取り組んだ内容

地域福祉推進委員会設置にあたり、年度当初に実施した施設協議会総会にて内規の変更を行い、令和7年6月30日に泉佐野市地域福祉推進委員会が設置されました。

泉佐野市で進められている重層的支援体制の構築においても社会福祉施設が担うべき役割が多分にあり、この推進委員会が重層的支援の片翼を担えるよう取り組みを進めています。地域福祉推進委員会として分野を超えた取り組みを検討しており、次年度は市社協で開催予定のボランティアフェスティバルへの出展を考えています。

### 課題と展望

市が実施に向けて動いている重層的支援体制整備事業に関する研修会を予定していましたが、今年度は実施が叶いませんでした。重層事業における多機関協働事業においては、施設と社協が両輪で取り組み、より一層の地域福祉推進が求められています。今後は施設・市社協が連携した取り組みについて学ぶ機会を設け、地域課題に取り組んでいきたいと考えています。

### コメント

予定していた研修会は実施できませんでしたが、地域福祉推進委員会が設置されたことは、とても大きな一歩に感じます。施設と市社協の連携はもちろん、地域住民等とともに泉佐野市の地域福祉が盛りあがるのが期待されます。



泉佐野市民間社会福祉施設協議会 保育部会

## ～誰もひとりぼっちにしないまちづくりをめざして～

### 取り組んだきっかけや目的

年齢や性別・国籍・障がい等の属性を問わない、誰もが参加することが出来る「地域共生社会」や「ダイバーシティ社会」の実現、地域コミュニティの活性化、新たな文化の定着等により、介護・障がい・子育て・困窮・ひきこもり等の既存制度では対応できない狭間のニーズに対応するため、居場所を提供します。

### 地域の状況や取り組んだ内容

#### ①専門職サポーターによる訪問支援(伴走型支援)

市内には社協が把握している分だけでも約130のひきこもり世帯があります。適宜訪問をし、その世帯とのつながりづくりをしています。

#### ②ひきこもりへの理解を深めるシンポジウムの開催

シンポジウム「本人と家族からの語り」では阪南市ひきこもり家族会の会長と小・中・高と不登校の経験者からの体験談を学びました。その後、グループに分かれての座談会では、～わたし達の地域でできることを一緒に考えませんか?～をテーマにディスカッションを実施しました。最後に、フリートーク交流では参加者が自由に意見や悩みなどを話し合い、参加者同士のつながりを大切にしました。

#### ③居場所づくり

ひきこもりの当事者やその家族および孤立や孤独を抱えた方の居場所づくりとして「たねまきカフェ」を開催。会場では、必要に応じて専門職(社会福祉士等)が相談支援などを実施しました。

#### ④参加支援

ひきこもり当事者、障がいのある方、一般の方等が広く参加できる場として、eスポーツ大会を開催しました。ICTを活用したイベントにすることで、既存の制度では対応できない狭間のニーズを拾い、活躍の場の拡大や社会参加への第1歩、つながりが地域に広がりました。



社協と地域、福祉事務所での訪問調査



ひきこもりシンポジウム



たねまきカフェ

### 課題と展望

市社協と福祉施設連絡会が引き続きハブ機能を担いながら、顔の見える関係づくりをていねいに積み重ねていくことが重要です。訪問活動や居場所づくりなどの実践を通して信頼関係を深め、地域住民や多様な主体との協働を広げていくことで、地域全体で支える体制はより強固なものとなります。福祉施設が専門性を生かして主体的に参画することで、誰もが孤立せず安心して暮らせる地域づくりへとつながっていくことが期待されます。

### コメント

高石市では地域貢献活動が着実に展開されています。特にひきこもり支援に力を注がれ、訪問調査による実態把握をはじめ、講演会やシンポジウムの開催、こどもの居場所づくりなど、多角的な取り組みを進めてこられました。こうした実践は、当事者や家族を地域で支える土壌づくりにつながるものであり、大きな意義があります。今後も市社協と福祉施設連絡会が地域貢献活動のハブとしての役割を担い、分野を超えたつながりをコーディネートしていくことが期待されます。地域全体で支える体制をより強固にするためには、福祉施設が専門性や資源を生かし、より積極的に参画していくことが重要と考えます。



## ともに考え、ともに動く「オール泉南」の挑戦 —産・官・学・民で進める地域共生のかたち—

### 取り組んだきっかけや目的

泉南市社協地域貢献委員会は、地域共生社会構築の「プラットフォーム」としての役割の機能を果たし、地域住民が生きがいを持ち、安心安全に暮らし続けられるまちづくりを目的とし、法人種別を問わない形で令和6年度に設立されました。

助成金を活用し、「オール泉南」の取り組みを住民へ周知するとともに、包括的支援体制構築に向けた協働体制のあり方について学ぶ機会を設けます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

当地域貢献委員会は、令和6年度に設立された新しい会であるため、地域課題解決に向けた取り組みなどについて学ぶ研修会を実施しました。

講師に大阪成蹊短期大学准教授の鈴木大介氏をお招きし、「地域共生社会の構築と地域の課題解決に向けた地域貢献委員会の役割について」をご講義いただきました。「産・官・学・民」が協働したオール泉南の強みを活かし、「泉南市独自の地域共生社会」実現に向けた取り組みを学ぶ機会となりました。また、広報誌を発行することで、地域貢献委員会の活動内容や加盟団体による独自の取り組みを住民へ広く発信することができます。これにより、活動の認知度向上や理解の促進につながり、地域における協力や参加を促す効果が期待され、取り組みの背景や思い、活動のようすを伝えることで、福祉施設や関係機関の役割を身近に感じてもらう、地域の支え合いの意識を育むことにもつながります。



地域課題解決に向けた研修会



大阪成蹊短期大学 鈴木准教授

泉南市社協地域貢献委員会  
広報誌

### 課題と展望

地域貢献委員会は泉南市社協を中心に、委員会の周知や活動報告、研修会の実施など積極的な活動をしています。民間企業やNPO法人など多種多様な機関が参加しているので、それぞれの強みを活かして連携することで、泉南市らしい地域貢献活動が進んでいくと期待できます。一方で、活動にあたる体制づくりや人的・情報のネットワーク構築や、担い手・リソースの不足などの課題を感じており、対応策を検討する必要を感じています。

### コメント

福祉施設以外も広く巻き込んだ委員会であり、泉南市全体で地域を支える取り組みが行われています。今後もこのつながりを活かしながら、それぞれの強みを活かした役割を分担し、実践を重ねていくことで地域貢献のさらなる深化につながると考えます。多様な主体が「ともに考え、ともに動く」体制を育てていくことにより、持続可能な地域支援のかたち広がっていくことが期待されます。

## 「ここで働きたい」と言われる法人を みんなで考える

### 取り組んだきっかけや目的

阪南市社会福祉施設連絡会として、社会福祉法人間での学びと連携を深め、人材確保・養成や分野を超えた協働を通じて、地域課題の解決や福祉サービスの向上につなげます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

人材不足という厳しい風が吹く今だからこそ、阪南市の社会福祉法人が手を取り合う「横のつながり」が大きな意味を持ち始めています。

今年度、私たちは2度の連絡会を開催しました。第1回は、社会福祉法人南山城学園 法人事務局 岡崎貴志氏より、具体的な実践を通じた「選ばれる社会福祉法人づくり」のヒントを学びました。法人の種別を超えて「悩んでいるのは自分たちだけではない」という確信を得るとともに、これからのあり方を共に考えるきっかけとなりました。

第2回では、社会福祉法人玉田山福祉会と社会福祉法人阪南福祉会より、分野を超えた協働についての事例報告をいただき、その後に意見交換を行いました。「どうつながればいいのか?」という問いを乗り越えた先には、一法人では抱えきれない課題を「地域の共通課題」として分かちあう、前向きな一歩がありました。

法人の垣根を超えたこの小さな連鎖が、阪南市の福祉の未来をより明るく変えていくと信じ、これからも歩を進めていきたいと思えます。



第2回 地域貢献委員会

### コメント

人材不足は1法人だけで解決できるものではありません。しかし、組織のあり方や育成の工夫、職員を大切にしている姿勢の積み重ねが、確実に未来をつくっていくことを今回の学びから実感しました。今回の学びや気づきをそれぞれの現場で具体的な行動へとつなげ、地域全体で「人が育ち、人が定着する土壌」を育てていくことが大切です。今後も連携を深めながら、持続可能な福祉の担い手づくりを進めていきたいと思います。



阪南市学習会

### 課題と展望

福祉分野全体で人材不足が深刻化する中、採用活動の強化だけでなく、「選ばれる法人・選ばれる職場」となるための組織づくりが求められています。

一方で、育成体制の整備や中堅職員のフォロー、職員の定着支援などについては、各法人の取り組みに差があることも課題として共有されました。また、高齢・児童・障がい・社協・行政といった分野ごとに課題を抱えながらも、横断的に学び合う機会はまだ十分とはいえません。

人材確保・養成を個々の法人の努力にとどめず、地域全体の課題として捉える視点が必要です。今回、社会福祉法人南山城学園の実践から、理念の共有、段階的な人材育成、働きがいを高める組織風土づくりなど、持続可能な人材戦略の重要性を学びました。

今後は、各法人が自組織の現状を見つめ直すとともに、分野を超えた共有や合同研修、採用広報の工夫など、連携による取り組みを進めていきます。

## Snoezelen ～誰もが安らげる場所～

### 取り組んだきっかけや目的

忠岡町地域貢献委員会は、忠岡町社協の組織構成会員を母体として今年度立ちあげました。地域貢献委員には組織構成会員の社会福祉法人を中心に就任し、高齢者や障がい者、児童との地域交流や地域住民の「居場所づくり」を趣旨とした地域共生社会の実現を目指して地域貢献活動を行います。

### 地域の状況や取り組んだ内容

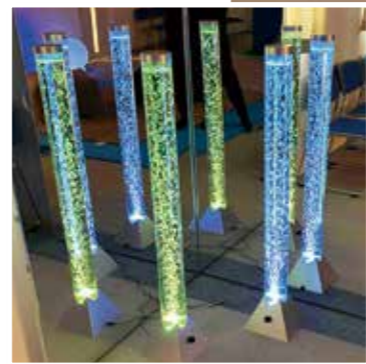
誰もが気軽にリラックスできる場所をテーマに「スノーズレン(Snoezelen)」を実施しました。スノーズレンとは、光・音・香り・触感などのやさしい刺激を通して、心身をリラックスさせる環境や活動のことです。オランダで生まれ、現在は高齢者施設や障がい福祉施設、医療・教育の現場などで活用されています。不安や緊張を和らげることに効果があるとされており、すでに導入されている社会福祉法人永寿福祉会(平野区)と社会福祉法人二色福祉会(貝塚市)へ視察に行き、体験。

その後、地域貢献委員会を開催し、今後の「居場所づくり」としてスノーズレンの実施について検討、地域貢献委員会の加盟施設、忠岡町社協が協力して運営・設置することとなりました。開催当日は、高齢者施設入居者や地域の住民など多数の方が来られ、スノーズレンに興味を持たれて、次回開催時期の質問などもあがりました。今回使用した器材等は、施設などに貸出を行う予定で、相談支援センターや保育園などでも使用したいとの意見も出ていました。

### 課題と展望

今回の実施を通して、多世代にわたり関心が高い取り組みであることが確認できました。一方で、スノーズレンの効果や目的についての理解をより深めるための周知や、継続的な開催体制の構築が今後の課題としてあげられます。また、器材の設置や運営には一定の人員確保や安全管理が必要であり、安定した実施体制づくりが求められます。貸出を希望する施設へのサポート体制や活用方法の共有についても整理していく必要があります。

光と音でつくるスノーズレンRoom



### コメント

スノーズレンは、年齢や性別、障害の有無を問わず、誰もが安心して過ごせる空間を提供するもので、地域共生社会の実現に向けた福祉的な居場所づくりの一つと考えられます。他の市町村では見られないユニークな取り組みで、「日本一小さな町 忠岡町」での連携した取り組みに注目していきたいです。

## みんなで育てる、地域のやさしさ —フェスタを通じた福祉の担い手づくり—

### 取り組んだきっかけや目的

田尻町では、地域教育協議会が行う子ども育成事業に、福祉施設、地区福祉委員会、社協、行政などが連携して実施しています。この子ども育成事業で、子どもと保護者を対象とした福祉教育となる企画を実施し、福祉に関心を持ってもらうことで地域の担い手育成につながることをめざします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

田尻町立小学校で開催された「たじりっこ安全フェスタ」に福祉施設を含む関係機関で協力して実施しました。本事業は、園児・小・中学生とその保護者を参加対象としており、幅広い年齢の方が参加されました。

当日は、交通安全イベントを中心とし、警察官による交通安全講習会や、交通安全に関するDVD上映が行われ、また、福祉施設の協力で高齢者疑似体験も実施されました。

疑似体験では、疑似体験セットを使った高齢者の日常生活体験や参加者が実際に車いすに乗り、とっさに動くことの難しさを学ぶ機会となり、当事者目線で考えることの大切さを学びました。

フェスタ会場には、子ども向けの縁日遊びコーナーや、自転車点検のアドバイスのブースもあり、楽しみながら学べるプログラムとなりました。

### 課題と展望

このイベントは町内の特別養護老人ホーム「フィオーレ南海」と協力して実施しました。日頃から施設と社会福祉協議会が情報共有や相談を重ね、顔の見える関係を築いてきたことにより、今回のような取り組みを円滑に企画・実施することができました。また、前述のとおり町内の各関係機関それぞれも、全員がコミュニティの一員であるという思いで一致しているため、これからも地域のつながりを大切にしていき、互いに支えあいながら地域づくりを進めていきたいです。

### コメント

子どもや保護者が楽しみながら福祉に触れ、当事者の視点で考える機会となる取り組みです。特に、福祉施設と社協、地域の関係機関が連携して実施した点は、地域全体で福祉を支える基盤づくりとして大きな意義があります。こうした実践の積み重ねが、福祉への理解を広げるとともに、将来の地域の担い手育成にもつながることが期待されます。



田尻町 安全フェスタ

警察による安全講習



車いす体験

## みんなの此花区 施設ナビ

### 取り組んだきっかけや目的

施設事業の発展充実と地域福祉の向上に加え、種別を超えた横断的なネットワークにより、情報交換・連絡調整・協働活動をするを目的に平成7年に組織されました。区内の保育所・高齢者施設・障がい者施設などの社会福祉施設が加盟しており、地域のみなさまに福祉施設の情報を提供しています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

施設マップの作成にあたり、保育施設・障がい児(者)施設・高齢者施設・その他の施設について、それぞれの役割や特徴がわかる説明を掲載しました。

また、此花区の地図上に各施設の所在地を色分けして表示し、保育施設はピンク、障がい児(者)施設はブルー、高齢者施設はグリーン、その他の施設はイエローとすることで、視覚的に分かりやすいよう工夫しました。

10月に開催されたこのはな区民まつりではブースを出展し、来場者へ施設マップを配布しました。

さらに、11月の此花区社会福祉大会では施設紹介パネルおよび利用者作品展とあわせて施設マップを配布し、多くの区民の皆さまに施設の取り組みを知っていただく機会となりました。

加えて、研修会等でも配布を行い、より幅広い層への周知に努めました。



最新版 此花区施設マップ



このはな施設マップを使ったクイズイベント

### 課題と展望

作成した施設マップを区民まつりや社会福祉大会等のイベントで配付していますが、区民のみなさんに、施設マップをもっと活用してもらえよう、新たな配付場所や配付する機会を検討していく必要があると考えています。

今後、加盟施設で話しあう機会をつくり、より効果的な配付方法について考えていきたいです。また、施設のみなさんにも、改めてマップの存在意義や、施設間の連携の必要性を感じてもらえればと思っています。

### コメント

施設マップを作成し、イベントなどで配布することで、地域の皆様にごにどの施設があるのか知る機会が増え、施設間でも災害訓練やイベント、施設間連携ができることを期待します。

## “その子の世界”を知ることから広がる支援 —VR体験で学ぶ、当事者目線の大切さと支援のつながり—

### 取り組んだきっかけや目的

西区社会福祉施設連絡会は、社会課題の解決を目的に、各施設の専門性を活かした相互連携や情報交換、研修、地域貢献などを行っています。今年度は当事者目線を体験する研修会を実施し、当事者理解を進めます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

西区社会福祉施設連絡会では、施設種別を超えた連携と発達障がいへの理解促進を目的に、VR体験による合同研修会を開催しました。当日は、会員施設および区内保育施設の職員など34名が参加。

VR機器を使用し、子どもの学校生活をテーマにした発達障がいの特性の疑似体験を行いました。

体験したのは、注意欠如多動症(ADHD)・学習障害(LD)・自閉スペクトラム症(ASD)といった特性です。

黒板の文字がうまく読み取れない。周囲の音が一斉に押し寄せてくる。体を思うように動かせない。当事者視点で体験することで、「何に困っているのか」「どのように感じているのか」を具体的に実感する機会となりました。体験後のグループディスカッションでは、「困らせている子」ではなく「困っている子」という視点に立ち、周囲でできる環境調整や声かけについて話しあいました。

参加者からは、「支援の視点が変わった」「自分の関わり方を見直すきっかけになった」といった声が寄せられました。

発達障がいVR体験研修(R8.1/22)



### 課題と展望

西区には社会福祉法人以外の保育施設も多くあり、今回の合同研修は施設の枠を超えたネットワークづくりの第一歩にもなりました。

特性の違う一人ひとりが安心して過ごせるよう、今後も専門性を活かした連携や研修の必要性を感じました。

### コメント

社会福祉法人以外の施設も対象とした研修を実施することで、区全体で地域を支える土壌づくりにつながります。

体験型研修を通じて、当事者目線で考えることの重要性を支援者間で共有し、「一人で抱えない支援」ができる支援者支援のネットワーク構築を期待します。



## 人生のランウェイ～利用者の望む暮らしを 「あなたのケアが誰かの人生を照らす！」

### 取り組んだきっかけや目的

天王寺区社会福祉施設連絡会は、区内の社会福祉施設が互いに連携し地域づくりを行っています。助成金を活用し、区内各施設の取り組みを共有する場を設け、施設と地域住民が交流し相互理解を図りたいと考えます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

天王寺区では、大阪市老人福祉施設連盟と施設連絡会の共催により、「介護の魅力伝え隊 presents 人生のランウェイ」を開催しました。このイベントは、施設職員が介護の意義と魅力を広く社会に発信することを目的として実施しました。

基調講演では、株式会社あおいけあ 代表取締役の加藤忠相氏を講師に迎え、「未来のあなたへ～まだ知らない“介護”という選択肢～」と題してご講演いただきました。講演後は、施設職員による「本人の想いに寄り添った生活支援」の実践について、具体的なエピソードを交えながら事例報告する場を設けました。事例報告に際しては、対応した際の画像や映像を用いた紹介に加え、利用者の方々がレッドカーペットを歩く「ランウェイ」の演出を取り入れ、来場した方が楽しめる工夫をしました。

### 実践事例

#### 「『ありがとう』が溢れる場所」特別養護老人ホームこうのとりの

入所後笑顔が少なくなったAさん、これまでの生活歴をいねいに振り返り、長年生け花を楽しまれていたことがわかりました。日常の中に生け花の時間を取り入れると、笑顔や感謝の言葉が増えていきました。歩んできた人生に目を向ける支援が生活の安定と充実につながりました。

#### 「Be a Hero」特別養護老人ホーム四天王寺紅生園

新入職員がご利用者に自分の名前を覚えてもらいたいという思いから、出勤のたびに名乗り挨拶を続けると、小さな積み重ねが信頼関係をはぐくみ自然な会話や関わりが増えていきました。

職員の想いが利用者に伝わり、良好な関係が築けました。

#### 「なんで家に帰ったらあかんの？」大領地域の家でい

施設入居後も、今までの生活を大切にしたいという思いから、本人希望により自宅への同行し、衣類を取りに行き、仏壇に手をあわせ、これまでの日常をともに振り返る時間を作りました。入居後も人生の続きとして暮らしを支えることで、安心感や前向きな気持ちにつながりました。



「ありがとう」が溢れる場所

「なんで家に帰ったらあかんの？」

welcomeボード

「Be\_a\_Hero」

### 課題と展望

施設職員の生の声を地域住民に届ける良い機会になったと思います。

次年度以降も参加者とともに楽しめるような企画を行い、地域と施設が密接につながっていきたいです。

### コメント

報告にあるイベントには、20名ほどの求職者も参加されており、施設職員がどのような思いで仕事をしているのか伝える機会にもなっていました。業界全体で人材不足と言われており、こういった地域に密着したイベントを通じて福祉業界の魅力発信を行い、地域全体で支え合う体制の構築につながってほしいです。

## 支えるから、ともに歩むへ —登録者主体で広がるあたらしい地域コミュニティ—

### 取り組んだきっかけや目的

当連絡会は、区内の施設相互間の親睦、連絡調整と共同活動を推進し、施設の事業内容の充実発展を目的としています。施設相互間の親睦、連絡調整、区内施設と地域社会の連携に関する事業、関係官公庁および団体との連絡調整を促進する事業等に取り組むとともに、施設職員の合同研修会等を実施しており、今年度は住民が交流できる場づくりに取り組めます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

平成27年にスタートした見守りキーホルダー事業は、氏名や緊急連絡先を登録番号のついたキーホルダーと紐づけて携帯することで、外出先で救急搬送をされた際など、速やかに身元確認ができるようになるものです。

事業実施から10年が経過し、登録者は増えるものの、緊急時の対応以外には年に1回程度、施設から登録者へ電話連絡をする程度でした。そこで、同じ気持ちを抱える当事者である登録者同士であれば新たなつながりが生まれると考え、お茶会の企画を提案。当初は、施設職員が主体となり運営を行っていましたが、登録者に対してサポーター協力に関するアンケートを実施し、登録者主体で運営されるようになりました。

登録者が運営に回ることによって、当事者同士が自然に声をかけあう場面が増え、つながりを感じる場になりました。

### 課題と展望

地域での共通アイテムとなっている「見守りキーホルダー」を活用し、当事者主体の場づくりを行えたことで、一定の有効性を感じることができました。一方で、関係の継続性や担い手の固定化を避ける工夫などの課題もあるため、今後も継続的にこの取り組みに関わり、地域住民とともに育てていくことをめざします。



映画上映会



2月お茶会



手さげバッグ

見守りキーホルダー

### コメント

当事者同士を組織化し、一つの地域コミュニティを創出したとても良い事例です。専門職がどこまで運営をするか、どの段階からサポートに回るかの判断は地域に根差した社会福祉法人だからこそ判断ができるものと思います。住民主体の取り組みの発展に注目していきたいです。

## 音楽と防災で広がる生野区のやさしいつながり —多世代・多文化が出会う交流の場づくり—

### 取り組んだきっかけや目的

生野区社会福祉施設連絡会は、施設と地域社会が連携を取りながら福祉事業を推進しています。地域にある福祉課題を区全体の問題と受け止め、一人ひとりの人権が尊重される誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目標とし、地域住民が広く参加でき、交流を深める企画を実施します。

### 地域の状況や取り組んだ内容

#### ① 生野区ふれあいコンサート

本コンサートは例年実施しており、区民が交流する場として欠かせないものとなっています。当日は(福)プロップ・ステーション理事長の竹中ナミ氏をお招きし、毎年恒例となっている「ナミねえライブ」や「みんなで合唱コーナー」などを実施。子どもから高齢者、障がいのある方まで、誰もが一緒に楽しめる内容とし、多世代・多文化共生の実践の場となっています。演目はシャンソンから童謡まで幅広く、音楽を通じて交流を深める時間となりました。



R7ふれあいコンサート

#### ② いくの防災フェスタ

災害に強いまちづくりをめざし、災害への備えの重要性を広く周知することを目的に実施しました。当日は、起震車体験、災害用伝言ダイヤル体験、AEDの説明、福祉用具の使用体験、災害時トイレ・段ボールベッド・災害備蓄品の展示など、多様な体験・学習プログラムを実施。また、プログラム参加実績に応じた記念品を配布するスタンプラリー形式を実施し、会場内にキッズコーナーを設けることで、親子で楽しみながら学べる工夫を行いました。防災意識の向上にとどまらず、地域内の顔の見える関係づくりを促進しています。



いくの防災フェスタ



### 課題と展望

生野区は人口の24%が外国籍住民となっており、多文化共生が求められるまちです。例年実施しているイベントにも多種多様な住民の参加を促す工夫が求められています。情報発信を強化し、地域を共に支えられるような関係づくりをめざします。

### コメント

生野区社協では以前に多言語対応の「ふれあい福祉マップ」を作成しており、積極的に多文化共生に取り組んでいます。大阪府全体でも外国にルーツを持つ住民が増えており、生野区における先進的な取り組みに注目していきたいです。

## まちと施設が出会う一歩 「あべのつながりマップ」と交流の広がり

### 取り組んだきっかけや目的

阿倍野区社会福祉施設連絡会は、区内の社会福祉施設の施設相互間の連絡調整と協働活動を推進し、施設の事業充実、発展を目的として活動している。施設は地域に根ざした機関であり、地域住民の一員であるという意識のもと、地域と施設が近くなる取り組みを行います。

### 地域の状況や取り組んだ内容

阿倍野区は、近代的な高層ビル「あべのハルカス」と、古代から続く歴史ある寺社や下町情緒あふれる商店街が共存する街です。天王寺エリアのにぎわいと、静かな寺町や住宅街の落ち着きが融合し、都会的でありながら温かみを感じられるのが魅力です。阿倍野区社会福祉施設連絡会は67施設の加盟があり、「あべのつながりフェスタ」や研修会や勉強会を実施していますが、現状としては施設も十分に地域に溶け込めていない部分もあり、施設も地域も、両者からの歩み寄りが必要と感じています。

#### ① あべのつながりフェスタ

あべのつながりフェスタでは、区内の福祉施設が「あべの福祉施設バル」として施設を開放し喫茶や軽食、ゲームやバザーなど、さまざまな催しを実施しました。地域の住民が気軽に施設へ行けるイベントとして実施し、施設と地域住民の距離を近いものにした。

#### ② あべのつながりマップの作成

地域住民に施設をより身近に感じてもらえるよう、社会福祉施設連絡会加盟施設が記載された冊子を作成。イベントやフェスタ、子ども食堂、カフェなど、取り組み内容も記載されており、地域住民への周知啓発に活用しました。



あべのつながりマップ

### 課題と展望

施設と地域住民の接点が限られていることで、活動内容や役割が十分に伝わっていないと感じています。また、加盟施設を増やし、阿倍野区全体で連携できる体制をめざしたい。今回作成したつながりマップにより、地域の施設が可視化され、新たな交流が生まれるきっかけとなりました。今後も地域と施設が支え合う関係を目指した取り組みを企画していきたいと考えます。

### コメント

つながりマップによって、阿倍野区内に点在するような施設を、「特別な場所」ではなく「まちの居場所」として感じてもらえるきっかけになったと思います。地域での顔の見える関係が構築され、地域と施設がつながり合う、あたたかなまちづくりへ発展していくことを期待しています。

## 「わかる」から「寄りそう」へ —認知症・発達障がい体験する学びの時間—

### 取り組んだきっかけや目的

社会福祉施設連絡会では、区内の施設相互間の親睦、連絡調整と協働活動を推進し、施設の事業内容の充実を目的としており、高齢・障がい・児童の分野を超えた交流や公益的な取り組みの検討、防災や人権などの研修会を実施しています。

今年度はVRの技術を活用し、認知症の中核症状や発達障がいのいくつかの特性を一人称で体験し、当事者理解を深めます。

### 地域の状況や取り組んだ内容

区内44施設が加盟する社会福祉施設連絡会(事務局:住之江区社会福祉協議会)では、分野を超えた連携と支援の質の向上を目的に、株式会社シルバーウッド協力のもと体験型研修を実施しました。

1日目は、認知症のある方の中核症状を疑似体験しました。「徘徊」「帰宅願望」などと表現されがちな行動の背景にある不安や混乱を体感し、本人を取り巻く環境や関わり方の重要性について学び、周囲の理解や関わり方によって大きく左右されることを学ぶ機会となりました。

2日目は、発達障がい(ADHD不注意優勢型、聴覚過敏・視覚過敏)の特性をVRで体験し、当事者インタビューを通して理解を深めました。特性は一律ではなく、環境や体調によって変化することも共有されました。ディスカッションでは、「支援する」という視点だけでなく、「社会の側がどう変わるか」を考える時間となりました。

本研修では、認知症や発達障がいについて「当事者視点」で体験することで、知識にとどまらない実感を伴った理解を深めることができました。支援する側の関わり方や環境づくりが、利用者の安心や生活の質に大きく影響することを改めて共有する機会となりました。

### 課題と展望

発達障がいや認知症を模擬体験し、認知症や発達障がいへの理解は、福祉関係者だけでなく地域全体で、どのような社会が望ましいのか、深めていくことが重要です。誰もが安心して暮らせるまちづくりに向け、分野を超えた連携をさらに強化し、地域全体で支えあう体制づくりを進めてまいります。

### コメント

今回の企画のように、体験型研修を通じて、当事者目線に立ち、生きづらさのポイントはどこにあるのか、支援する側が工夫するポイントは何かを考えることで、小さな配慮の積み重ねが、大きな安心につながります。

誰もが暮らしやすい街づくりにつながると感じました。住民同士が支えあえるような取り組みに注目していきたいです。



住之江区  
VR体験  
研修



住之江区  
施設連絡会  
研修会 VR体験

## 住吉まるごと体験 ～防災・福祉～ SUMIYOSHI ACTION2026

### 取り組んだきっかけや目的

住吉区社会福祉施設連絡会として、住吉区内の施設相互間の連絡調整、親睦を図り、施設の事業内容の充実と発展、地域福祉推進に寄与するため協働活動を推進し、地域社会との連携を深めることを目的に活動しています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

#### ①「第12回住吉区防災イベント ～あそぼうさいまなぼうさいおたがいさまの防災～」

11月29日子どもから大人まで、区・市民どなたでも参加可能なイベントを実施。ミニ消防車・救急車のバッテリーカー体験運転、DMATや自衛隊・警察車両の展示など、防災について楽しみながら学ぶことができました。

#### ②「福祉の職場の見学ツアー」

学生対象、社会人対象をそれぞれ2日間ずつ開催し、区内の施設見学および職員との交流を通じ学んでいただきました。参加者からは「想像しているよりもすごく勉強になり、貴重な体験ができた」と高評価でした。

#### ③「ふらっと楽しむ“すみよし”」

令和8年3月14日、施設連絡会、ボランティア・市民活動センター共催で実施。福祉施設、ボランティア活動の広報啓発を行いました。福祉版の区民祭りのな位置づけであり、チャリティーバザーなどの被災地の復興支援も行っていました。舞台発表や、施設の飲食ブース、ゲームコーナーなど幅広い世代が楽しめるイベントとなりました。

### 課題と展望

各イベントには多くの参加があり、福祉や防災への関心を高めることはできましたが、学びを継続的な地域活動につなげていくことが課題です。また、福祉施設の役割や活動について、地域へのさらなる周知が求められます。

福祉施設と地域住民、学生、ボランティアなど多様な主体がつながる機会を継続的に創出していきます。また、福祉の仕事や地域活動への理解を深めることで、将来の担い手づくりや地域での支え合いの仕組みづくりにつなげていくことをめざします。誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進していきます。



11.29あそぼうさい  
まなぼうさい



すみちゃん



ふらっと楽しむ“すみよし”

### コメント

防災・人材・施設等の啓発活動と幅広く、子どもから大人まで幅広い世代の関心ごとの多いイベントを年間を通じてされてることに魅力を感じます。

今後とも魅力あるイベントを期待しています。

## 一つの取り組みが、地域の力に「学びと協働を重ねるやさしいまち」

### 取り組んだきっかけや目的

区内の社会福祉施設(高齢・障がい・児童・保育)が分野を超え、地域の福祉課題に連携・協働して取り組み、地域福祉の推進を目的として活動しています。

社会福祉施設の社会貢献活動を強化し、平野区社会福祉施設連絡会加盟施設が地域に根ざした活動ができるよう環境づくりを進めています。

### 地域の状況や取り組んだ内容

平野区社会福祉施設連絡会は72施設の会員で構成され、研修会や地域の交流会に参画しています。9月に開催された地域別交流会では、精神障がいの方への理解について学ぶ機会を設けました。また、社会福祉施設の災害時対応については、福祉避難所の設置や住民が施設へ避難されることを想定し、簡易トイレを災害時備蓄品として各施設に保管するよう取り組みました。

また、地域貢献の取り組みについて会員施設へアンケートを実施。アンケートでは、各施設が行う地域貢献について、メリット・デメリットを含め回答してもらい、次年度以降の研修企画に反映させます。



社会福祉施設連絡会



災害時には簡易トイレを活用します

福祉避難所を想定して備蓄



社会福祉施設連絡会総会にて地域課題を共有

### 課題と展望

例年、研修会等を通じて施設間の相互理解を深められるよう進めています。災害についてもBCP研修など、施設が抱える課題は多くあると感じています。アンケート結果では、地域ニーズ、市民の声の拾い方など研修企画で希望する声もあり、今後も様々な地域課題について積極的に学ぶ機会を設けていきたいと思えます。

### コメント

施設が抱える課題に対し、一つずつついでに対応している印象を受けました。

地域のニーズを拾い、より良い地域福祉を実現することが社会福祉法人に求められており、今後も地域一丸となって同じ方向を目指しましょう。

## 地域で福祉を支える人とのであいを西成からの魅力発信

### 取り組んだきっかけや目的

西成区社会福祉施設連絡会は、区内の施設相互間の親睦、連絡調整と協同活動を推進し、地域福祉の充実および発展を目的としています。施設職員の分野を超えた交流、人権や防災意識を高めることを目的とした研修を開催しています。

地域の社会資源としての福祉施設の役割や重要性を発信し、地域全体で福祉分野の人材確保と雇用促進を図ることをめざします。

### 地域の状況や取り組んだ内容

西成区は、商業と住宅が混在し、経済的にも多様性に富んだ地域であり、多文化が交差するダイナミックな社会構造を形成しています。また、歴史的背景と多様な街並みを持つ特色ある地域でもあります。

### 「福祉のしごとと発見フェア in 西成」

西成区における福祉分野の担い手確保を目的としたイベントとして開催されました。実施に向けては、求職者に向けたチラシを作成し、連合振興町会の班回覧や、府下の福祉系大学や専門学校へ周知しました。

高齢・児童・障がいなど、各施設のブースでは、施設概要や仕事内容、待遇などについていねいな説明が行われました。地域の方が近くで働けるよう簡単な補助作業、数時間業務など紹介され、熱心に耳を傾ける姿が見られました。開催後のアンケート結果では、福祉の仕事に興味をもつ方が多く、50代以上の参加者も多くありました。

また、参加のきっかけとしては、チラシを見て来場された方も多く、チラシを使った宣伝効果を感じることもできました。

地域の方と直接対話することで、福祉のしごとをより身近に感じて頂く機会となりました。

「福祉のしごとと発見フェア in 西成」



### 課題と展望

当初は西成区1人でも来場してくれたらという思いでしたが、当日はたくさんの方に来場いただきました。企画会議では、若手の採用を求める施設と、柔軟な採用を行う施設など、さまざまな意見が出ました。それぞれのターゲット層への参加を促すため、チラシを2種類作成したところ、幅広い方にご参加いただけました。より良いフェアを実施するため、募集する職種や雇用形態、出展方法について考える必要性を感じました。

### コメント

福祉の担い手確保のための戦略をはじめ、広報の発信方法など、イベント実施に向けて関係者間で密に連携がとられ、各々が役割を全うしたことで良いイベントになったと感じました。今後は市域で人材確保に向けたイベントが実施されることを願っています。



つむぎ苑

就職にむけた相談

# 地域貢献委員会(施設連絡会)の取り組み概要

◎：地域貢献委員会(施設連絡会)が実施している事業がある

○：地域貢献委員会(施設連絡会)が協力している事業がある

|        | 市町村   | 生活課題を抱える方への支援                |                 |               |      |               |             |      |          |              | 地域連携         |                     |                      |                            | 災害支援             |                  |                      |      | 持続可能な地域づくり         |                                  |                              |          | 備考 |
|--------|-------|------------------------------|-----------------|---------------|------|---------------|-------------|------|----------|--------------|--------------|---------------------|----------------------|----------------------------|------------------|------------------|----------------------|------|--------------------|----------------------------------|------------------------------|----------|----|
|        |       | 生活困窮者支援<br>総合生活相談            | 居場所づくり<br>場所の提供 | 就労支援<br>中間的就労 | 居住支援 | 食支援<br>フードバンク | 支援物品<br>の提供 | 学習支援 | 移動支援     | 権利擁護<br>法人後見 | 福祉教育<br>への協力 | 住民対象の<br>研修会の<br>実施 | 情報交換会<br>連絡会の実施      | 多分野との<br>連携<br>(農福連携等)     | 災害時の<br>受け入れ     | 備蓄品の活用           | 福祉避難所の<br>協定         | 防災訓練 | 人材確保<br>就職<br>フェア等 | 職員間の<br>交流・研修                    | 社会資源マップ                      | 広報(HPなど) |    |
| 北<br>摂 | 豊中市   | ○                            |                 |               | ○    | ○             | ○           |      |          |              | ○            | ○                   |                      | ○                          | ○                |                  | ○                    | ○    | ○                  | ◎                                | 市社協と<br>連携して実施               |          |    |
|        | 池田市   |                              | ○               |               |      | ○             |             |      |          |              |              | ◎                   |                      |                            |                  | ○                | ○<br>災害時ボランティア訓練     | ○    |                    |                                  |                              |          |    |
|        | 吹田市   | ◎                            | ○               | ○             | ○    | ○             | ◎           | ○    |          | ○            | ◎            | ◎                   | ○                    | ○                          | ○                |                  |                      | ◎    | ◎                  | ◎                                |                              |          |    |
|        | 高槻市   | ◎                            | ◎○              | ◎○            |      | ○             | ○           | ○    |          | ◎○           |              | ◎○                  | ◎○                   |                            |                  | 協定は法人・事業所<br>で締結 |                      | ◎    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 茨木市   |                              |                 |               |      |               |             |      |          |              |              |                     |                      |                            |                  |                  |                      |      |                    |                                  | 休止中                          |          |    |
|        | 箕面市   |                              |                 |               |      |               |             |      |          |              |              | ◎                   | 共同募金寄付つき<br>商品のとりまとめ | ○                          |                  | ○                |                      | ○    | ◎                  | ◎                                | ○                            |          |    |
|        | 摂津市   | ○                            | ○               | ○             | ○    | ○             | ○           |      |          |              |              | ◎                   |                      | ○                          | ○                | ○                |                      | ◎    | ◎                  | ◎                                |                              |          |    |
|        | 島本町   | ○                            | ○               | ○             |      | ○             | ○           |      |          | ○            | ○            | ○                   |                      | ○                          | ○                | ◎○               |                      | ◎    | ◎                  | ◎                                |                              |          |    |
|        | 能勢町   | ○                            | ○               | ○             |      |               | ○           | ○    |          | ○            |              | ○                   |                      | ○                          | ○                | ○                | ○                    | ○    |                    |                                  |                              |          |    |
| 豊能町    | ○     | ○                            |                 |               | ○    | ○             |             |      | ○        |              | ○            |                     | ○                    | ○                          | ○                |                  |                      |      |                    | ○                                |                              |          |    |
| 河<br>北 | 守口市   |                              | ○               |               |      |               |             |      | ○<br>研修会 | ◎            |              | ◎                   |                      |                            |                  |                  | 研修会                  | ○    | ◎                  |                                  | ○<br>ボランティアフェア・<br>介護フェスタと連動 |          |    |
|        | 枚方市   | ◎○                           | ○               |               |      | ◎○            |             |      |          |              | ◎            |                     |                      |                            |                  |                  |                      | ◎    |                    | ◎                                |                              |          |    |
|        | 寝屋川市  |                              | ○               | ○             |      | ◎             | ◎           |      |          | ◎            |              |                     |                      | ◎                          | ○                |                  |                      | ◎    |                    |                                  |                              |          |    |
|        | 大東市   | ○                            | ◎               | ○             |      |               |             |      |          | ○            | ○            |                     |                      | ○                          | ○                | ○                | ◎                    | ○    | ◎                  |                                  | ○                            |          |    |
|        | 門真市   |                              |                 |               |      |               |             |      |          | ◎            |              | ◎                   |                      |                            |                  |                  | 研修会体験型防災<br>学習施設での体験 | ◎    | ◎                  | 市内の相談窓口マップ                       | ◎                            |          |    |
|        | 四條畷市  | ◎<br>生活困窮者等支援事業<br>(独自:現物給付) | ◎               |               |      | ○             | ○           |      |          | ◎            | ◎            |                     |                      |                            | ◎<br>災害備品等貸し出し事業 | ○                | ◎                    | ◎    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 交野市   |                              |                 |               |      |               |             |      |          | ○            | ◎            |                     | ○                    |                            | ○                |                  | ○                    | ○    | ○                  |                                  | ○                            |          |    |
| 河<br>南 | 東大阪市  |                              |                 |               |      |               |             |      |          |              |              |                     |                      | ○                          |                  |                  |                      | ◎    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 八尾市   | ◎○                           | ◎○              | ◎○            | ◎○   | ◎○            | ◎○          | ◎○   | ◎○       | ○            | ○            | ◎○                  | ◎○                   | ◎○                         | ◎○               | ◎○               | ◎○                   | ◎○   | ◎○                 | ○                                | ◎○                           |          |    |
|        | 柏原市   | ◎<br>生活支援事業<br>(独自:上限1万円の給付) |                 | ○             |      | ◎             | ◎           |      |          | ○            |              | ◎<br>役員会・実務担当者会     |                      | ○                          | ◎<br>市と協定あり      | ○                | ○                    | 研修会  |                    | ◎                                |                              | ◎        |    |
|        | 富田林市  |                              | ○               |               |      | ○             |             |      | ○        |              | ◎            |                     |                      | ○                          |                  | ○                |                      |      |                    |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 河内長野市 | ◎○                           | ○               | ○             | ○    | ○             | ○           | ○    | ○        | ◎○           | ○            | ◎○                  | ○                    | ○                          | ○                | ◎○               | ○                    |      | ◎○                 | ◎○                               | ○                            |          |    |
|        | 松原市   |                              | ○               |               |      | ○             | ○           |      |          |              |              | ◎                   |                      |                            |                  | ○                |                      | ○    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 羽曳野市  |                              |                 |               |      |               |             |      |          |              |              | ◎                   |                      | ○                          |                  | ○                |                      | ○    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 藤井寺市  | ◎                            |                 |               |      |               | ◎           |      |          | ◎            |              | ◎                   | ◎                    | ○                          | ◎                |                  |                      | ◎    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 大阪狭山市 |                              |                 |               |      |               |             |      |          | ○            | ○            | ◎                   |                      |                            |                  | ○                |                      |      | ◎                  |                                  | ○                            |          |    |
|        | 河南町   | ○                            | ○               | ○             | ○    |               | ○           |      | ○        | ○            | ◎            | ◎                   | ○                    | ◎<br>法人・事業所単位<br>で協力       |                  |                  |                      | ◎    | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
| 太子町    | ○     | ◎                            | ◎               |               | ○    | ○             |             |      | ○        | ◎            | ◎            | ○                   | ○                    | ○                          |                  |                  | ◎                    | ◎    |                    | ◎                                |                              |          |    |
| 千早赤阪村  |       |                              |                 |               | ○    | ○             |             |      | ○        |              | ◎            |                     | ○                    | ○                          |                  |                  |                      |      |                    |                                  |                              |          |    |
| 泉<br>州 | 岸和田市  | ◎                            | 各法人・事業所で<br>実施  |               |      |               |             |      |          |              |              |                     |                      | ◎<br>災害ボランティア<br>ネットワークへ参画 |                  | ◎                | ○                    | ◎    | ◎                  |                                  |                              |          |    |
|        | 泉大津市  |                              |                 |               |      | ◎             |             |      |          |              |              |                     |                      |                            |                  |                  |                      |      | ◎                  |                                  | ◎                            |          |    |
|        | 泉佐野市  |                              | ○               |               |      |               |             |      |          |              |              | ○                   |                      |                            |                  | ○                |                      |      |                    |                                  |                              |          |    |
|        | 和泉市   | ◎                            | ◎               |               |      |               |             | ◎    | ◎        |              |              |                     |                      |                            |                  |                  |                      |      |                    |                                  | 社会福祉のつどいに<br>参画              |          |    |
|        | 貝塚市   | ◎                            |                 |               |      |               |             |      |          |              |              | ◎                   |                      |                            |                  |                  |                      | ◎    |                    |                                  |                              |          |    |
|        | 高石市   | ○                            | ○               | ○             | ○    | ○             |             |      |          | ○            | ◎            | ◎                   |                      |                            |                  |                  |                      | ○    | ○                  |                                  | ○                            |          |    |
|        | 泉南市   | ○                            | ◎<br>外国人の居場所    | ◎             |      | ○             | ◎           |      |          |              |              | ◎                   | ◎                    |                            |                  | ○                |                      |      | ◎                  | ◎                                |                              |          |    |
|        | 阪南市   |                              | ◎               |               |      |               |             |      |          |              |              | ○                   |                      |                            | ○                |                  |                      |      |                    |                                  |                              |          |    |
|        | 忠岡町   |                              | ◎               |               |      |               |             |      |          | ○            |              | ◎                   |                      |                            |                  | ○                |                      | ○    |                    |                                  |                              |          |    |
|        | 熊取町   | ◎○                           | ○               |               | ○    |               |             |      |          | ○            |              | ◎○                  |                      | ◎                          | ○                | ◎                | ○                    | ○    | ○                  | ○                                | ○                            |          |    |
| 田尻町    |       |                              |                 |               |      |               |             |      | ○        | ○            |              |                     |                      |                            |                  |                  |                      |      |                    | 町内の社会福祉法人が<br>1か所のため種する<br>組織とする |                              |          |    |
| 岬町     |       | ◎                            | ◎               |               |      |               |             |      | ○        | ○            | ◎            |                     | ○                    | ○                          | ○                |                  |                      |      |                    | ○                                |                              |          |    |
|        |       | 22                           | 26              | 15            | 8    | 19            | 21          | 4    | 5        | 4            | 23           | 14                  | 37                   | 10                         | 19               | 19               | 22                   | 10   | 14                 | 30                               | 12                           | 27       |    |

## 助成事業報告書をまとめて

大阪しあわせネットワークの取り組みは、個人への支援にとどまるものではなく、個人を支える地域づくりへの支援へと発展させていくことを目指しています。すなわち、個人・家族・集団・地域を包括した一体的な支援の実現に向け、これまでの実践を踏まえながら取り組みを深化させるものです。これは、個別の課題から地域資源の開発や新たな制度・施策の創出へとつなげていく「地域を基盤としたソーシャルワーク」の実践でもあります。

令和7年度、助成金を活用した市区町村ごとの取り組みについては、市町村地域貢献委員会（施設連絡会）の活動を後押しする立場から、取材や広報等に関わってきました。その中で、各地域における実践の広がり、関係機関の連携の深化を実感しています。

今後も、これまで培われてきた関係性や歴史を基盤としつつ、地理的条件や人口動態、産業構造、地域文化、社会資源、福祉・保健・医療の支援体制等を踏まえ、それぞれの地域の強みが発揮される取り組みとなるよう、大阪しあわせネットワークとして伴走支援を続けてまいります。

令和8年3月 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会  
社会貢献基金 運営委員会

## 大阪しあわせネットワーク市区町村域体制整備助成事業の概要（抜粋）

これからの地域共生社会の実現に向けて、「大阪しあわせネットワーク」の各社会福祉法人・施設が事業を推進するうえで重要となる「市区町村域での社協と施設の種別を越えたネットワークの構築」について、オール大阪でのさらなる発展と普及をめざし、市区町村域における地域貢献委員会（施設連絡会）等と連携した協働体制整備のための取組に対し、【社会貢献基金】により助成するもの。

### ●助成の対象

市区町村域での社会福祉施設と市区町村社協が連携・協働したネットワーク構築の取り組みを実施する地域貢献委員会（施設連絡会）やCSW連絡会等のうち、地域における包括的支援体制「大阪モデル」の構築の促進と充実に資することを目的に、下記の条件をふまえて取り組む地域【市区町村単位】とする。

### ●助成期間 令和7年度助成（R7.4.1～R8.3.31）※令和9年度まで年度ごとの申請・助成

### ●助成金額 市区町村単位での申請に基づき、人口割による最大35～55万円までの申請額を助成

【社会貢献基金】大阪府社協会員施設が、「大阪しあわせネットワーク」の事業を推進するための財源として拠出しています。



令和7年度  
大阪しあわせネットワーク 市区町村域体制整備助成事業 報告書  
令和8(2026)年3月発行

---

[編集・発行] 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 施設福祉部 社会貢献推進室  
〒542-0065 大阪市中央区中寺1-1-54 大阪社会福祉指導センター内  
<https://www.osaka-shiawase.jp/>